

平成 26 年度

大気汚染・水質汚濁・交通騒音・地盤沈下の状況

平成 27 年 7 月

横浜市 環境創造局



## 目次

第1	平成26年度大気汚染の状況	1
1	常時監視測定結果	1
(1)	大気環境の概要	1
(2)	二酸化硫黄 (SO <sub>2</sub> )	2
(3)	一酸化炭素 (CO)	2
(4)	浮遊粒子状物質 (SPM)	3
(5)	二酸化窒素 (NO <sub>2</sub> )	4
(6)	光化学オキシダント (OX)	5
(7)	微小粒子状物質 (PM <sub>2.5</sub> )	5
2	有害大気汚染物質の測定結果	6
第2	平成26年度水質汚濁の状況	7
1	公共用水域の水質測定結果	7
(1)	水環境の概要	7
(2)	河川の概要	7
(3)	海域の概要	8
2	地下水質測定結果	9
(1)	地下水質の概要	9
(2)	概況調査	9
ア	定点調査	9
イ	メッシュ調査	9
(3)	継続監視調査	9
(4)	汚染井戸周辺地区調査	9
(5)	汚染井戸監視・追跡調査 (地下水質測定計画以外の調査)	10
第3	平成26年度交通騒音等の状況	11
1	道路交通騒音調査及び面的評価	11
2	新幹線鉄道騒音・振動調査結果	11
3	航空機騒音調査結果	11
第4	平成26年度地盤沈下の状況	13
1	調査の概要・調査	13
2	精密水準測量測定結果	13

—資料編—

第1	平成26年度 大気汚染の状況	15
1	大気汚染の測定内容	15
2	常時監視測定結果	17
(1)	二酸化硫黄 (SO <sub>2</sub> )	17
(2)	一酸化炭素 (CO)	19
(3)	浮遊粒子状物質 (SPM)	21
(4)	二酸化窒素 (NO <sub>2</sub> )	24
(5)	光化学オキシダント (OX)	27
(6)	微小粒子状物質 (PM <sub>2.5</sub> )	28
3	有害大気汚染物質の常時監視測定結果	29
4	大気汚染に関する環境基準等	30
第2	平成26年度 水質汚濁の状況	31
1	公共用水域及び中小河川の水質状況	31
(1)	公共用水域の水質測定内容及び中小河川の水質調査内容	31
(2)	公共用水域の水質測定及び中小河川の水質調査結果	35
(3)	水質汚濁に関する環境基準	49
2	地下水の水質状況	51
(1)	地下水質測定等内容	51
(2)	地下水質の測定結果	52
第3	平成26年度 交通騒音等の状況	55
1	道路交通騒音調査及び面的評価の内容	55
(1)	道路交通騒音調査及び面的評価の内容	55
(2)	道路交通騒音調査及び面的評価の結果	56
(3)	道路交通騒音・振動に関する環境基準	57
2	新幹線鉄道騒音・振動状況	58
(1)	新幹線鉄道騒音・振動調査の内容	58
(2)	新幹線鉄道騒音・振動調査の結果	59
(3)	新幹線に関する環境基準等	62
3	航空機騒音の状況	63
(1)	航空機騒音調査の内容	63
(2)	航空機騒音調査の結果	63
(3)	航空機騒音に関する環境基準	64
第4	平成26年度 地盤沈下の状況	65
1	地盤沈下の状況	65

## 第1 平成26年度大気汚染の状況

横浜市では大気環境の状況を把握するため、大気汚染防止法に基づき、二酸化硫黄等の常時監視（自動測定機による連続測定）及びベンゼン等の有害大気汚染物質の測定（毎月の定点測定）を継続的に行っています。

### 1 常時監視測定結果

#### (1) 大気環境の概要

- 大気汚染の状況を把握するため、市内に一般環境大気測定局（以下「一般局」という。）20局、自動車排出ガス測定局（以下「自排局」という。）8局を設置し、環境基本法に基づき環境基準が設定されている二酸化硫黄、一酸化炭素、浮遊粒子状物質、二酸化窒素、光化学オキシダント及び微小粒子状物質について常時監視を行っています。

【p.15:表 1-2】

- 平成26年度の大気環境の状況は、二酸化窒素等4物質について、全局で環境基準に適合しました。
- 微小粒子状物質は、18局中2局で環境基準に適合しました。 【表 1-1】
- 光化学オキシダントは全局で環境基準に適合しませんでした。

表 1-1 最近10年間の環境基準適合局数の推移

年度	二酸化硫黄 (SO <sub>2</sub> )	一酸化炭素 (CO)	浮遊粒子状物質 (SPM)		二酸化窒素 (NO <sub>2</sub> )		光化学オキシダント (OX)	微小粒子状物質 (PM2.5)	
	一般局	自排局	一般局	自排局	一般局	自排局	一般局	一般局	自排局
17年度	20/20	5/5	20/20	8/8	20/20	8/8	0/19	—	—
18年度	18/18	3/3	17/20	6/8	20/20	8/8	0/19	—	—
19年度	18/18	3/3	20/20	8/8	20/20	8/8	0/19	—	—
20年度	18/18	3/3	20/20	8/8	20/20	8/8	0/19	—	—
21年度	18/18	3/3	20/20	8/8	20/20	8/8	0/19	—	—
22年度	18/18	3/3	20/20	8/8	20/20	8/8	0/19	—	—
23年度	18/18	3/3	20/20	8/8	20/20	8/8	0/19	0/2	0/1
24年度	18/18	3/3	20/20	8/8	20/20	8/8	0/19	0/3	1/3
25年度	18/18	3/3	17/20	7/8	20/20	8/8	0/19	0/5 <sup>※</sup>	0/3
26年度	17/17 <sup>※</sup>	3/3	20/20	8/8	20/20	8/8	0/19	2/15	0/3

(注) 表中の数字は適合局数/測定局数で、太字は全局適合を表す。

※環境基準の評価対象外となった測定局は除く。

## (2) 二酸化硫黄 (SO<sub>2</sub>)

- 測定を行った一般局 18 局のうち、環境基準の評価対象となった 17 局の全局で長期的評価による環境基準（1 時間値の 1 日平均値が 0.04 ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1 ppm 以下であること。）に適合しました。全局での適合は、昭和 55 年度から 35 年連続です。

【p.1:表 1-1】

- 年平均値の全局平均は 0.002 ppm で、昭和 42 年度をピークに昭和 50 年度までに急激に低下し、その後緩やかに改善傾向を示し、低濃度で推移しています。

【図 1-1, p.18:表 1-4】

- 年平均値の最高は、「中区本牧測定局」が 0.004 ppm、最低は、「瀬谷区南瀬谷小学校測定局」他 2 局が 0.001 ppm でした。

【p.17:表 1-3】

- 工場・事業所での天然ガス等の良質な燃料の使用に加え、軽油の硫黄含有量の低減等により、濃度が低下しています。

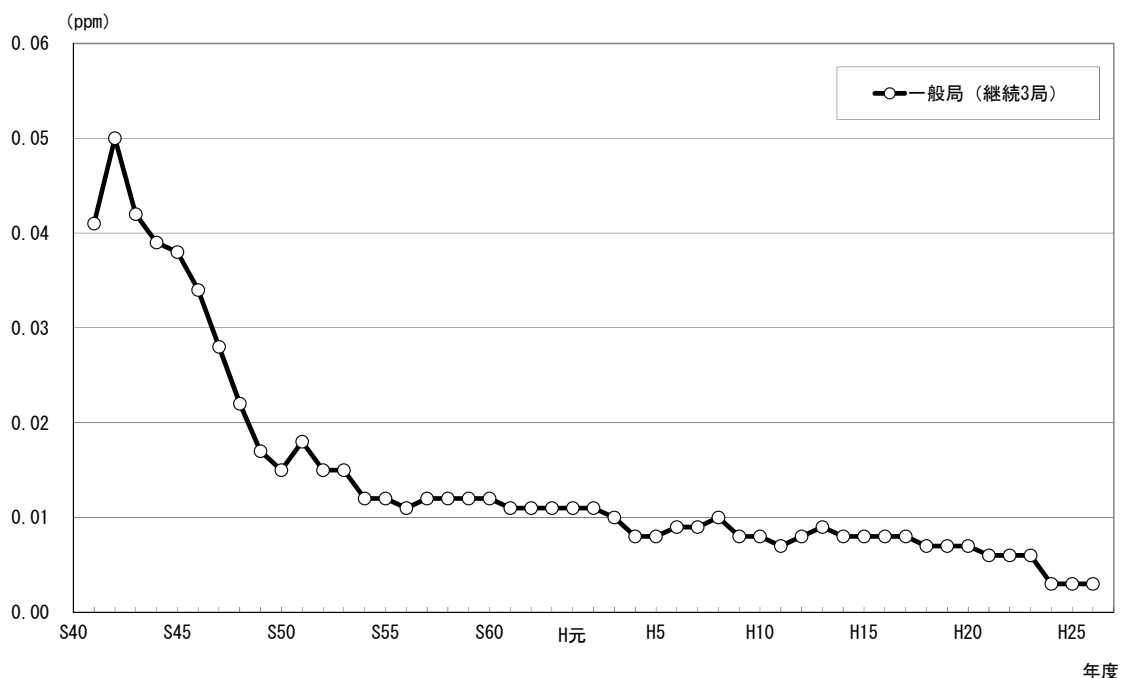


図 1-1 二酸化硫黄年平均値の経年変化（継続測定局）

## (3) 一酸化炭素 (CO)

- 測定を行った自排局 3 局の全局で環境基準（1 時間値の 1 日平均値が 10 ppm 以下であり、かつ、1 時間値の 8 時間平均値が 20 ppm 以下であること。）に適合しました。全局での適合は、昭和 56 年度から 34 年連続です。

【p.1:表 1-1】

- 年平均値の全局平均は、0.6 ppm でした。昭和 52 年度以降低下し、その後も市内全域にわたって低濃度で推移しています。

【p.20:図 1-7, p.20:表 1-6】

- 年平均値の最高は「西区浅間下交差点測定局」が 0.8 ppm、最低は、「青葉台測定局」が 0.5 ppm でした。

【p.19:表 1-5】

(4) 浮遊粒子状物質 (SPM)

- 測定を行った一般局 20 局及び自排局 8 局の全局で環境基準(1 時間値の 1 日平均値が  $0.10 \text{ mg/m}^3$  以下であり、かつ、1 時間値が  $0.20 \text{ mg/m}^3$  以下であること。)に適合しました。

【p.1:表 1-1】

- 年平均値の全局平均は、一般局が  $0.024 \text{ mg/m}^3$ 、自排局が  $0.025 \text{ mg/m}^3$  でした。

【p.21:表 1-7 , p.22 : 表 1-8】

- 濃度が最も高かった昭和 53 年度と比較し、一般局で 59%、自排局では 68%低減しました。一般局及び自排局ともに改善傾向にあります。平成になってからの自排局の改善が顕著に現れています。

【図 1-2】

- 一般局の年平均値の最高は、「西区平沼小学校測定局」が  $0.027 \text{ mg/m}^3$ 、最低は、「旭区鶴ヶ峯小学校測定局」が  $0.021 \text{ mg/m}^3$  でした。

【p.21:表 1-7】

- 自排局の年平均値の最高は、「西区浅間下交差点測定局」が  $0.027 \text{ mg/m}^3$ 、最低は、「戸塚区矢沢交差点測定局」及び「磯子区滝頭測定局」が  $0.024 \text{ mg/m}^3$  でした。自動車排ガスの影響を受ける自排局ですが、近年は一般局と同程度にまで低減しています。

【p.22:表 1-8 , p.23:図 1-8】

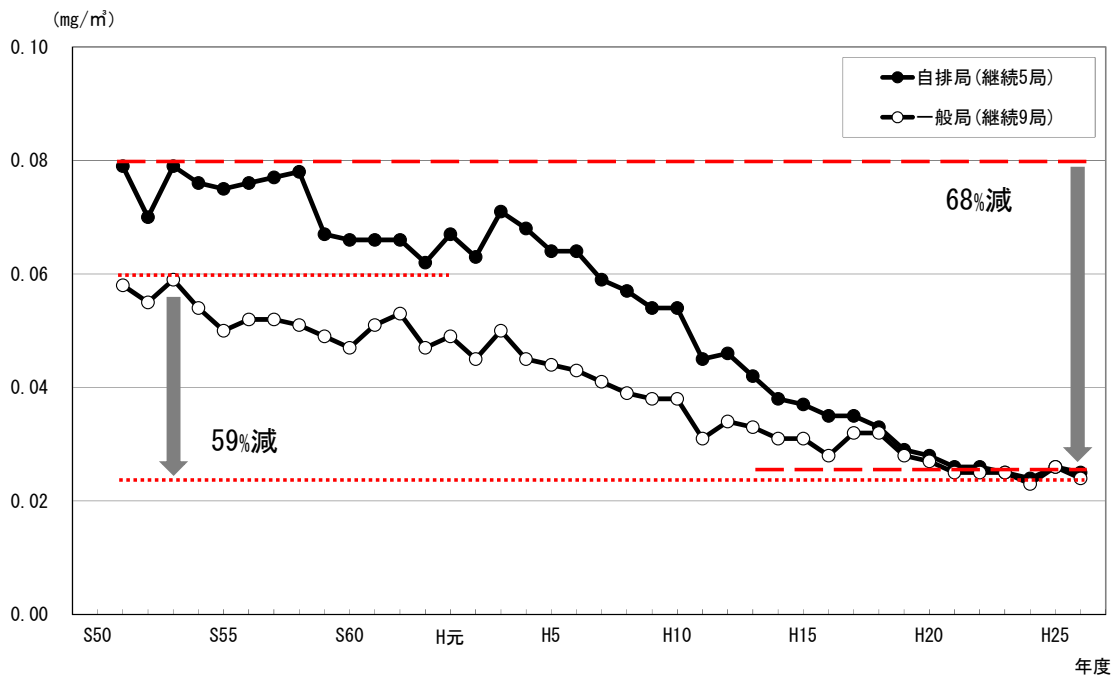


図 1-2 浮遊粒子状物質の年平均値の経年変化 (継続測定局)

(5) 二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>)

- 測定を行った一般局 20 局及び自排局 8 局の全局で環境基準 (1 時間値の 1 日平均値が 0.04 ppm から 0.06 ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。) に適合しました。全局での適合は、平成 17 年度から 10 年連続です。【p.1:表 1-1】
- 年平均値の全局平均は、一般局が 0.016 ppm、自排局が 0.021 ppm でした。【p.24:表 1-9】
- 自排局では最も濃度が高かった昭和 54 年度と比較し、57%低減しました。一般局で最も濃度が高かった平成 3 年度と比較し、53%低減しました。直近の 10 年間でも、緩やかではありますが改善傾向を示しています。【図 1-3 , p.26:図 1-10】
- 一般局の年平均値の最高は、「鶴見区潮田交流プラザ測定局」及び「鶴見区生麦小学校測定局」で 0.019 ppm、最低は、「金沢区長浜測定局」他 2 測定局で 0.013 ppm でした。市内の沿岸部では比較的高め、内陸部及び南部では比較的低めの測定値を示しました。【p.24:表 1-9】
- 自排局の年平均値の最高は、「西区浅間下交差点測定局」が 0.026 ppm、最低は、「資源循環都筑工場前測定局」が 0.017 ppm でした。【p.24:表 1-9】

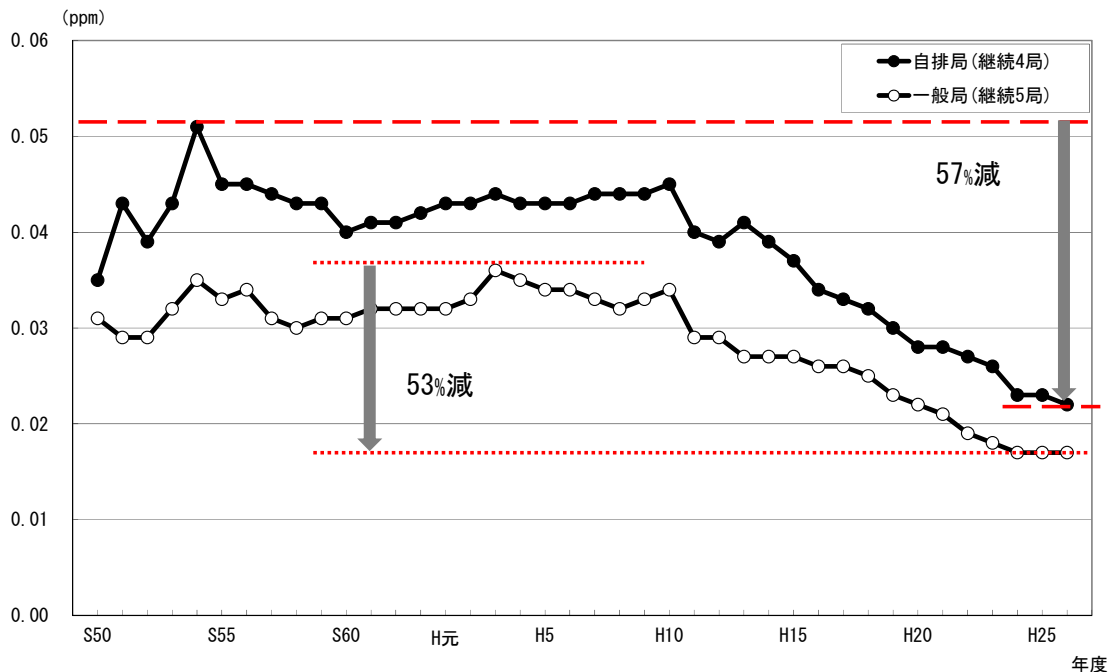


図 1-3 二酸化窒素の年平均値の経年変化 (継続測定局)



## (6) 光化学オキシダント (OX)

- 測定を行った一般局 19 局の全局で環境基準（1 時間値が 0.06 ppm 以下であること。）に不適合でした。平成 2 年度から 25 年連続で全局不適合が続いています。【p.1:表 1-1】
- 昼間の年平均値の最高は、「戸塚区汲沢小学校測定局」他 2 測定局が 0.033 ppm、最低は、「鶴見区潮田交流プラザ測定局」他 2 測定局が 0.027 ppm で、19 局の平均は 0.030 ppm でした。【p.27:表 1-1 1】
- 本市域への光化学スモッグ注意報の発令回数は 5 回でした。なお、光化学スモッグ警報は昭和 53 年以降発令されていません。【図 1-4 , p.27:表 1-1 2】
- 光化学スモッグによる健康被害の届出はありませんでした。光化学スモッグに関する情報提供として、平成 10 年度からインターネットで光化学オキシダントなどの測定値を公表しております。また、早急な対応を取るために、平成 16 年度からは光化学スモッグ注意報の発令状況等の情報を、携帯電話等へメールでお知らせするサービスも開始しております。

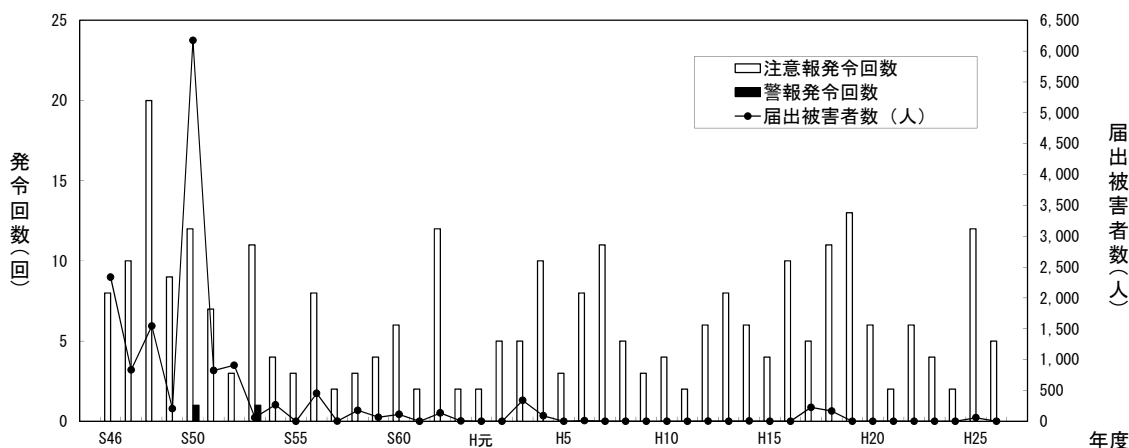


図 1-4 光化学スモッグ注意報・警報の発令状況及び届出数被害者数の経年変化

## (7) 微小粒子状物質 (PM2.5)

- 平成 21 年 9 月 9 日環境省告示第 33 号により新たに環境基準が定められた微小粒子状物質の測定を平成 23 年度より開始しました。
- 一般局 15 局及び自排局 3 局の計 18 局で測定を行い、そのうち一般局の 2 局で環境基準（年平均値が  $15 \mu\text{g}/\text{m}^3$  以下であり、かつ、日平均値が  $35 \mu\text{g}/\text{m}^3$  以下であること。）に適合しました。
- 一般局の年平均値の最高は、「鶴見区潮田交流プラザ測定局」で、 $18.2 \mu\text{g}/\text{m}^3$  でした。最低は、「港南区野庭中学校測定局」で  $13.1 \mu\text{g}/\text{m}^3$  でした。
- 自排局の年平均値の最高は、「青葉台測定局」で、 $18.5 \mu\text{g}/\text{m}^3$  でした。最低は、「戸塚区矢沢交差点測定局」で  $15.5 \mu\text{g}/\text{m}^3$  でした。【p.28:表 1-1 3】

## 2 有害大気汚染物質の測定結果

- 有害大気汚染物質のうちの優先取組物質等の 23 物質を一般局 3 局（一般環境地域 1 局、固定発生源周辺地域 2 局）と自排局 2 局（沿道地域 2 局）で測定しました。（有害大気汚染物質の調査地点は、「一般環境地域」、「固定発生源周辺地域」及び「沿道地域」に分類されています。）
- 環境基準又は指針値が設定されている 13 物質（ベンゼン等）は、測定を行った全局で環境基準又は指針値に適合しました。 【p.29: 表 1-14～表 1-16】

## 第2 平成26年度水質汚濁の状況

横浜市では河川や海域、地下水の水環境の状況を把握するため、水質汚濁防止法に基づいて、神奈川県知事が定める「公共用水域及び地下水の水質測定計画」により、公共用水域の水質測定と地下水質測定等を継続的に行っています。

### 1 公共用水域の水質測定結果

#### (1) 水環境の概要

- 水質汚濁の状況を把握するため、市内河川 21 地点、海域 7 地点において環境基本法に基づき設定された、人の健康を保護する上で維持されることが望ましい基準として環境基準が定められた 27 項目（以下「健康項目」という。）及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準として環境基準が定められた 12 項目（以下「生活環境項目」という。）について測定を行いました（国土交通省及び大和市が分担した河川 10 地点を含みません）。

表 2-1 最近 10 年間の環境基準適合地点数の推移

年度	河川	海域		
	BOD	COD	全窒素	全磷
17年度	18/21	3/7	3/7	4/7
18年度	19/21	3/7	3/7	3/7
19年度	20/21	5/7	4/7	4/7
20年度	20/21	5/7	3/7	3/7
21年度	21/21	4/7	3/7	4/7
22年度	21/21	5/7	6/7	4/7
23年度	21/21	6/7	5/7	5/7
24年度	21/21	6/7	6/7	5/7
25年度	21/21	5/7	6/7	6/7
26年度	21/21	3/7	6/7	5/7

(注) 表中の数字は適合地点数／測定地点数で、太字は全地点適合を表す。

#### (2) 河川の概要

- 毎月、市内の鶴見川、入江川、帷子川、大岡川、宮川、侍従川、境川及びその支川の計 21 地点で水質測定を行いました。【p.31:表 2-2 , p.33:図 2-2】
- 平成 26 年度の河川の水質状況は、健康項目については全ての地点で環境基準に適合しました。【p.35:表 2-6】
- 生活環境項目のうちの河川の有機性汚濁の指標である BOD（B 類型：3 mg/L 以下、C 類型：5 mg/L 以下、D 類型：8 mg/L 以下、E 類型：10 mg/L 以下）が、6 年連続で環境基準に適合しました。【表 2-1 , p.37:表 2-8】
- 鶴見川 3 地点の BOD 経年変化は、改善傾向を示しています。【p.8:図 2-1】
- 河川ごとの BOD 年平均値は、穏やかに改善傾向を示し、近年も低濃度で推移しています。【p.39～p.42:図 2-3～図 2-10】

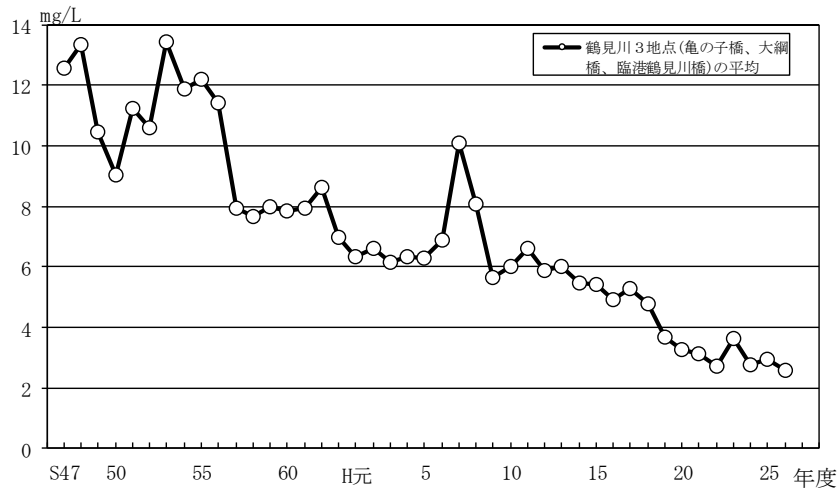


図 2-1 鶴見川の BOD 経年変化

### (3) 海域の概要

- 毎月、東京湾及び横浜港の計 7 地点で水質測定を行いました。  
 【p.31:表 2-3 , p.33:図 2-2】
- 平成 26 年度の海域の水質状況は、健康項目については全ての地点で環境基準に適合しました。  
 【p.35:表 2-6】
- 生活環境項目の海域の有機性汚濁の指標である COD (B 類型: 3 mg/L 以下、C 類型: 8 mg/L 以下) は 3 地点で適合しました。  
 【p.7:表 2-1, p.44:表 2-1 1】
- 東京湾内にのみ環境基準が定められている、全窒素 (Ⅲ類型: 0.6 mg/L 以下、Ⅳ類型: 1 mg/L 以下) 及び全燐 (Ⅲ類型: 0.05 mg/L 以下、Ⅳ類型: 0.09 mg/L 以下) は、全窒素が 6 地点、全燐が 5 地点で適合しました。  
 【p.7:表 2-1 , p.45:表 2-1 3, 表 2-1 4】
- 各測定地点の項目ごとの平均値は、概ね横ばい状態を示しています。  
 【p.46~p.48:図 2-1 1 ~ 図 2-1 6】

## 2 地下水質測定結果

### (1) 地下水質の概要

- 地下水については、神奈川県水質測定計画において概況調査（定点調査、メッシュ調査）、継続監視調査及び汚染井戸周辺地区調査が定められ、その他の汚染井戸監視調査及び汚染井戸追跡調査と併せ、合計 117 地点で水質調査を行い、地下水の汚染状況の把握に努めています。
- 平成 26 年度は、33 地点において硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素などの環境基準項目が環境基準値を超過していました。【p.52:表 2-19 , p.54:図 2-17】

### (2) 概況調査

#### ア 定点調査

- 定点調査（長期的な観点から水質の経年変化を調査する。）として、市内の 6 地点で環境基準項目 27 項目（アルキル水銀を除くカドミウム、全シアン及びトリクロロエチレン等）、要監視項目 1 項目（クロロホルム）及び一般項目 5 項目（水温及び pH 等）を測定しました。【p.51:表 2-18 , p.54:図 2-17】
- 全 6 地点で環境基準に適合しました。【p.52:表 2-19 , p.53:表 2-20】

#### イ メッシュ調査

- メッシュ調査（市域を 2 km メッシュに分割し、メッシュ内に存在する井戸の地下水を採取する。4 年間で市内全体の調査を行う。）として市内の 24 地点で、環境基準項目 27 項目、要監視項目 1 項目及び一般項目 5 項目を測定しました。【p.51:表 2-18 , p.54:図 2-17】
- 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素は、2 地点で環境基準（10 mg/L 以下）に不適合でした。【p.52:表 2-19 , p.53:表 2-20】

### (3) 継続監視調査

- 継続監視調査（過去に確認された汚染について、継年的な変化を監視するため定期的に調査する。）として市内の 28 地点で汚染物質を測定しました。【p.51:表 2-18 , p.54:図 2-17】
- 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素は、15 地点で環境基準（10 mg/L 以下）に不適合でした。【p.52:表 2-19 , p.53:表 2-20】
- 一般項目である pH は、1 地点で水道法第 4 条に基づく水質基準に不適合でした。

### (4) 汚染井戸周辺地区調査

- 汚染井戸周辺地区調査（概況調査において環境基準を超える汚染が新たに判明した場合に、その汚染範囲を確認するために調査する）として市内 2 地域 5 地点で硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素を測定しました。【p.51:表 2-18 , p.54:図 2-17】
- 5 地点のうち、概況調査で汚染が確認された 1 地点で環境基準（10 mg/L 以下）に不適合でした。

(5) 汚染井戸監視・追跡調査（地下水質測定計画以外の調査）

- 汚染井戸監視調査・追跡調査（過去に行った市の独自調査や事業者からの報告により汚染が確認された測定地点において、継続的な監視のため定期的に調査する。）として市内の56地点で汚染物質を測定しました。【p.51:表 2-18】
- 1,2-ジクロロエチレンは、5地点で環境基準（0.04 mg/L 以下）に不適合でした。【p.52:表 2-19 , p.53:表 2-20】
- トリクロロエチレンは、7地点で環境基準（0.01 mg/L 以下）に不適合でした。
- テトラクロロエチレンは、8地点で環境基準（0.01 mg/L 以下）に不適合でした。
- 塩化ビニルモノマーは、1地点で環境基準（0.002 mg/L 以下）に不適合でした。

### 第3 平成26年度交通騒音等の状況

横浜市では道路交通騒音状況を把握するため、騒音規制法に基づいて、**道路交通騒音調査及び面的評価**を継続的に実施しています。

また、新幹線の鉄道騒音・振動の状況や厚木海軍飛行場に飛来する航空機による騒音の状況を把握するため、**新幹線鉄道騒音・振動調査**と**航空機騒音調査**も継続的に行っています。

#### 1 道路交通騒音調査及び面的評価

- 道路交通騒音は、測定を行った34地点のうち12地点で昼夜間ともに環境基準（昼間：70デシベル以下、夜間：65デシベル以下）に適合しました。【p.56:表 3-2】
- 面的評価（道路端から50 mまでの範囲にある住居等の受ける騒音レベルを実測値を基に予測式を用いて算出し、環境基準に適合する戸数及びその割合を求めるもの。）における道路騒音は、調査した14路線延べ116.4 kmについては、87.8%で昼夜間ともに環境基準（昼間：70デシベル以下、夜間：65デシベル以下）に適合しました。【p.57:表 3-3】

#### 2 新幹線鉄道騒音・振動調査結果

- 新幹線の鉄道騒音は、測定を行った24地点のうち、14地点で環境基準（Ⅰ類型：70デシベル以下、Ⅱ類型：75デシベル以下）に適合しました。騒音レベルは、近年はほぼ横ばいです。【p.59:表 3-6,表 3-7】
- 新幹線の鉄道振動は、測定を行った24地点のうち、23地点で指針値（70デシベル）に適合しました。振動レベルは、ここ10年間では、ほぼ横ばいとなっています。【p.59:表 3-8,表 3-9】

#### 3 航空機騒音調査結果

- 本市は環境基準の地域指定がされていませんが、測定を行った3地点の全地点で住居系の地域に適用される基準値（ $L_{den}$  値で57）を下回っていました。騒音レベルは、長期的には横ばいとなっています。【p.63:表 3-14】





## 第4 平成26年度地盤沈下の状況

横浜市では地盤沈下の状況を把握するため、精密水準測量を毎年1回行っています。

### 1 調査の概要・調査

- 地盤沈下は、過剰な地下水の汲み上げにより、主として粘土層が収縮することで生じる現象です。
- 横浜市の主要河川沿いの低地や海岸部には、粘土や砂れきが何層にも積み重なっている「軟弱地盤」と呼ばれる地層が厚く堆積しています。砂れき層から地下水を過剰に汲み上げると、水圧が下がり粘土層から水分が絞り出されます。水分を絞り取られた粘土層は上に乗っている地層の重みでゆっくりと押しつぶされ地盤沈下が起こります。
- 地盤沈下の監視は、環境省の「地盤沈下監視ガイドライン」に基づき実施しています。主に軟弱地盤である沖積低地を対象地域として、500m<sup>2</sup>に1箇所程度の密度で水準点を配置し、年に1回、精度は一級水準測量で実施しています。
- 地盤沈下は、隣接する各自治体との関連もあるため、国土交通省国土地理院指導のもとに関東地区の各自治体（関東地区地盤沈下調査測量協議会1都6県4市）が調整を行い、毎年1月1日を基準日として、関東地区全体の地盤沈下状況を調査しています。

### 2 精密水準測量測定結果

- 主に軟弱地盤である沖積低地（171.90 km<sup>2</sup>）を調査対象地域として、333地点の延長368 km（国土地理院測量の52 kmを含む）の精密水準測量を実施しました。
- 精密水準測量の結果、前年と比較が出来る成果点332地点のうち、10 mm以上の沈下を確認した地点はなく、最大沈下量は8.5 mmでした。また、隆起が42地点（13%）で確認されました。

なお、平成25年度に10 mm以上の沈下を確認したのは2地点、隆起は94地点（28%）でした。

※ 平成23年度は、東日本大震災による地殻変動により、全ての成果点で20 mm以上の沈下を確認しました。（国や横浜市では毎年1月1日を基準日として測量を行い前年と比較しているため、平成23年3月11日の東日本大震災の影響は平成22年度ではなく平成23年度に反映されています。）

【p.65:表 4-1～表 4-3】



## 第1 平成26年度 大気汚染の状況

## 1 大気汚染の測定内容

表 1-2 大気汚染常時監視測定局及び測定項目

種 別	地点 番号	測定局名	測定項目						
			二 酸 化 硫 黄	一 酸 化 炭 素	浮 遊 粒 子 状 物 質	二 酸 化 窒 素	光 化 学 オ キ シ ダ ン ト	微 小 粒 子 状 物 質	有 害 大 気 汚 染 物 質
一般環境大気測定局※1	1	鶴見区潮田交流プラザ	○	—	○	○	○	○	○
	2	神奈川区総合庁舎	○	—	○	○	○	○	—
	3	港北区総合庁舎	○	—	○	○	○	○	—
	4	中区加曾台	—	—	○	○	—	—	—
	5	磯子区総合庁舎	○	—	○	○	○	○	—
	6	保土ヶ谷区桜丘高校	○	—	○	○	○	○	—
	7	西区平沼小学校	○	—	○	○	○	—	—
	8	金沢区長浜	○	—	○	○	○	○	—
	9	鶴見区生麦小学校	—	—	○	○	○	—	—
	10	中区本牧	○	—	○	○	○	○	○
	11	戸塚区汲沢小学校	○	—	○	○	○	—	—
	12	港南区野庭中学校	○	—	○	○	○	○	—
	13	旭区鶴ヶ峯小学校	○	—	○	○	○	○	—
	14	瀬谷区南瀬谷小学校	○	—	○	○	○	○	—
	15	南区横浜商業高校	○	—	○	○	○	○	—
	16	栄区上郷小学校	○	—	○	○	○	○	—
	17	緑区三保小学校	○	—	○	○	○	○	○
	18	青葉区総合庁舎	○	—	○	○	○	—	—
	19	都筑区総合庁舎	○	—	○	○	○	○	—
	20	泉区総合庁舎	○	—	○	○	○	○	—
自動車排出ガス測定局※2	21	鶴見区下末吉小学校	—	—	○	○	—	—	—
	22	西区浅間下交差点	—	○	○	○	—	○	—
	23	港南中学校	—	—	○	○	—	—	—
	24	戸塚区矢沢交差点	—	—	○	○	—	○	○
	25	旭区都岡小学校	—	○	○	○	—	—	—
	26	青葉台	—	○	○	○	—	○	—
	27	資源循環都筑工場前	—	—	○	○	—	—	—
	28	磯子区滝頭	—	—	○	○	—	—	○

※1：以下「一般局」という。 ※2：以下「自排局」という。

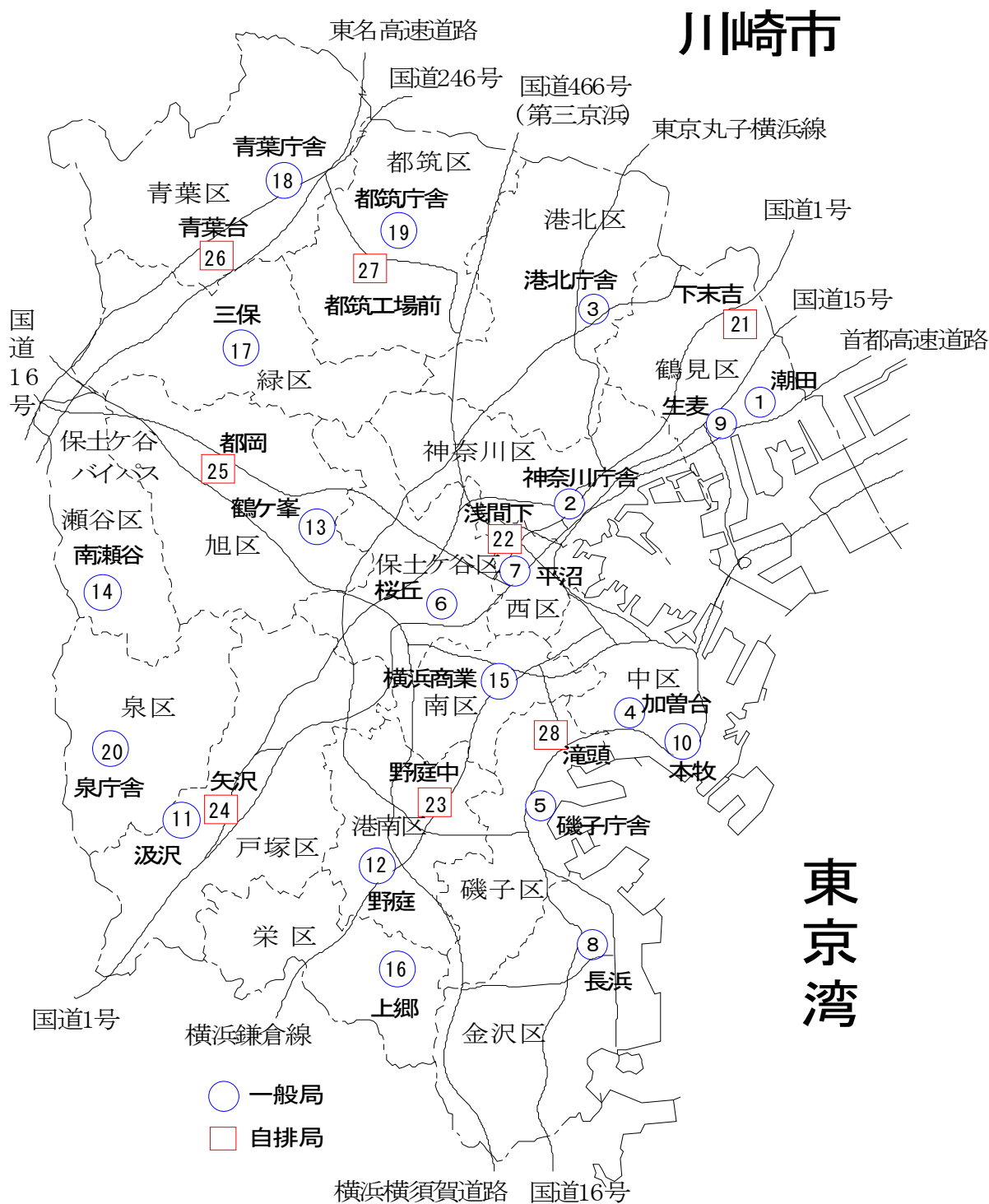


図 1-5 大気汚染常時監視測定局の配置

## 2 常時監視測定結果

(1) 二酸化硫黄 (SO<sub>2</sub>)

表 1-3 平成26年度 二酸化硫黄の年間測定結果 (一般局)

測定局	年平均値	1時間値が 0.1ppmを超 えた時間数	日平均値が 0.04ppmを 超えた日数	日平均値の 2%除外値	長期的評価に よる環境基準 の適否
	(ppm)	(時間)	(日)	(ppm)	(適○ 否×)
鶴見区潮田交流プラザ	0.003	0	0	0.008	○
神奈川区総合庁舎	0.003	0	0	0.008	○
港北区総合庁舎	0.002	0	0	0.004	○
磯子区総合庁舎	0.003	1	0	0.010	○
保土ヶ谷区桜丘高校	0.002	0	0	0.005	○
西区平沼小学校	0.002	0	0	0.005	○
金沢区長浜	0.002	0	0	0.005	○
中区本牧	0.004	0	0	0.009	○
戸塚区汲沢小学校	0.002	0	0	0.004	○
港南区野庭中学校	0.002	0	0	0.005	○
旭区鶴ヶ峯小学校	0.002	0	0	0.004	○
瀬谷区南瀬谷小学校	0.001	0	0	0.003	○
南区横浜商業高校	0.003	0	0	0.006	○
栄区上郷小学校	0.002	0	0	0.004	○
緑区三保小学校	0.002	0	0	0.003	○
青葉区総合庁舎	0.001	0	0	0.003	○
都筑区総合庁舎※	(0.001)	(0)	(0)	(0.003)	—
泉区総合庁舎	0.002	0	0	0.003	○
一般局平均	0.002	—	—	0.005	—

※年間の測定時間が6000時間未満のため、参考値です。

表 1-4 二酸化硫黄の年平均値の経年変化（一般局）

(ppm)

測定局	年度	平成									
		17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
鶴見区潮田交流プラザ		0.009	0.008	0.007	0.007	0.007	0.006	0.006	0.003	0.004	0.003
神奈川区総合庁舎		0.008	0.008	0.007	0.007	0.006	0.006	0.006	0.003	0.003	0.003
港北区総合庁舎		0.007	0.006	0.006	0.006	0.006	0.005	0.005	0.002	0.002	0.002
中区加曽台		0.009	-	-	-	-	-	-	-	-	-
磯子区総合庁舎		0.008	0.008	0.006	0.007	0.007	0.006	0.006	0.005	0.004	0.003
保土ヶ谷区桜丘高校		0.005	0.006	0.005	0.005	0.005	0.004	0.004	0.002	0.002	0.002
西区平沼小学校		0.006	0.006	0.005	0.005	0.005	0.004	0.004	0.003	0.002	0.002
金沢区長浜		0.006	0.006	0.005	0.006	0.005	0.005	0.005	0.002	0.002	0.002
鶴見区生麦小学校		0.007	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中区本牧		0.009	0.009	0.008	0.007	0.007	0.007	0.007	0.004	0.003	0.004
戸塚区汲沢小学校		0.005	0.004	0.004	0.004	0.004	0.004	0.004	0.001	0.001	0.002
港南区野庭中学校		0.006	0.006	0.005	0.005	0.005	0.004	0.004	0.002	0.002	0.002
旭区鶴ヶ峯小学校		0.006	0.006	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.002	0.002	0.002
瀬谷区南瀬谷小学校		0.005	0.005	0.004	0.004	0.004	0.004	0.004	0.001	0.001	0.001
南区横浜商業高校		0.006	0.006	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.003	0.002	0.003
栄区上郷小学校		0.005	0.005	0.005	0.005	0.004	0.004	0.004	0.001	0.001	0.002
緑区三保小学校		0.005	0.005	0.004	0.004	0.005	0.004	0.004	0.001	0.002	0.002
青葉区総合庁舎		0.006	0.006	0.005	0.005	0.005	0.005	0.004	0.001	0.001	0.001
都筑区総合庁舎※		0.007	0.007	0.007	0.006	0.006	0.005	0.005	0.005	0.001	(0.001)
泉区総合庁舎		0.006	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.001	0.002
一般局平均		0.007	0.006	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.003	0.002	0.002

※平成26年度は年間の測定時間が6000時間未満のため、参考値です。

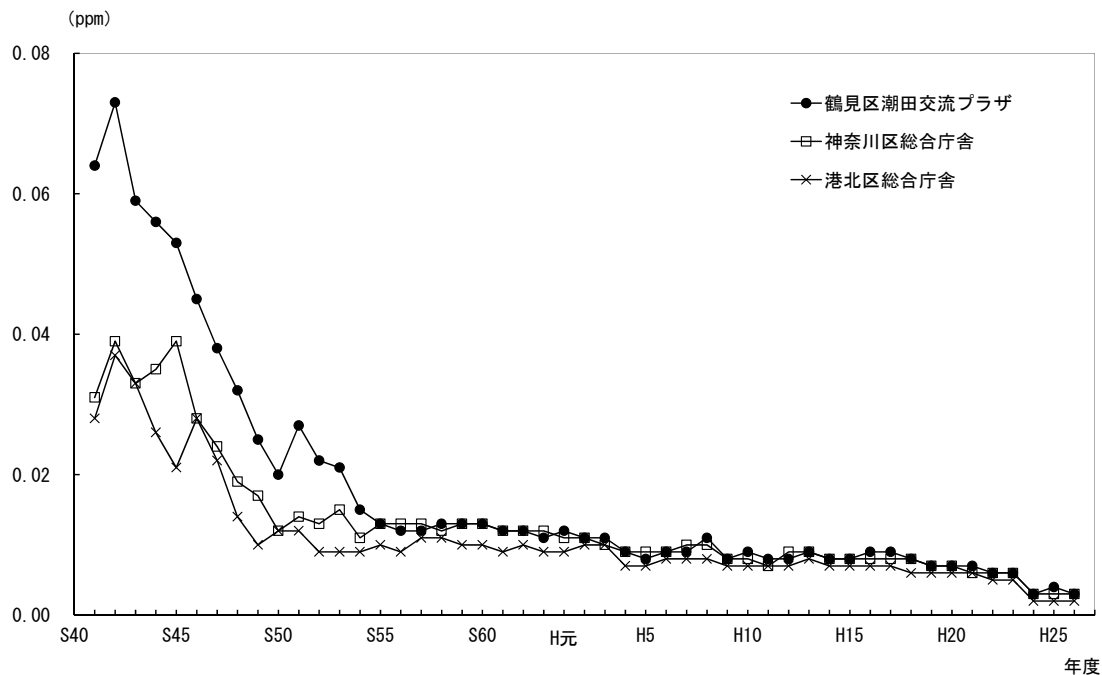


図 1-6 二酸化硫黄の年平均値の経年変化（一般局継続3局）

(2) 一酸化炭素 (CO)

表 1-5 平成26年度 一酸化炭素の年間測定結果（自排局）

測定局	年平均値	8時間値 が20ppm を超えた 回数	日平均値 が10ppm を超えた 日数	日平均値の 2%除外値	長期的評価に よる環境基準 の適否
	(ppm)	(回)	(日)	(ppm)	(適○ 否×)
西区浅間下交差点	0.8	0	0	1.3	○
旭区都岡小学校	0.6	0	0	1.2	○
青葉台	0.5	0	0	0.9	○
自排局平均	0.6	—	—	1.1	—

表 1-6 一酸化炭素の年平均値の経年変化（自排局）

測定局	(ppm)										
	年度 平成	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
西区浅間下交差点		1.2	1.1	1.0	0.8	0.8	0.7	0.6	0.6	0.6	0.8
旭区都岡小学校		0.8	0.9	0.8	0.7	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6
青葉台		0.8	0.7	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
自排局平均		0.9	0.9	0.8	0.7	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6

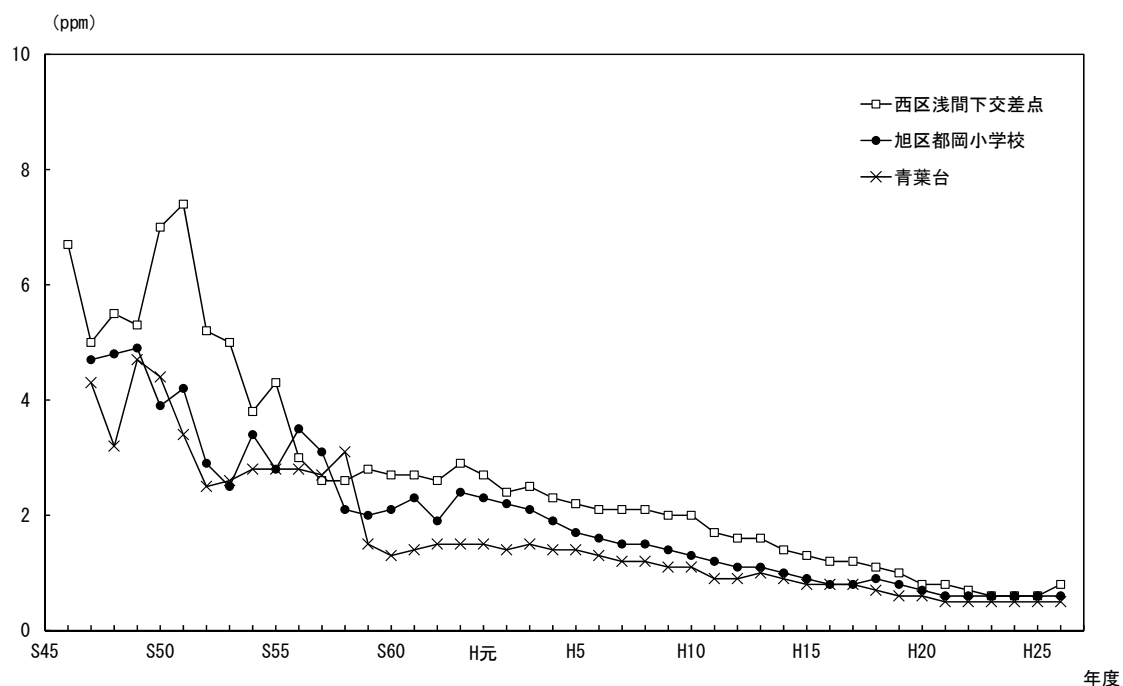


図 1-7 一酸化炭素の年平均値の経年変化（自排局継続3局）



## (3) 浮遊粒子状物質 (SPM)

表 1-7 平成26年度 浮遊粒子状物質の年間測定結果 (一般局・自排局)

測定局	年平均値 (mg/m <sup>3</sup> )	1時間値が 0.20mg/m <sup>3</sup> を超えた時 間数 (時間)	日平均値が 0.10mg/m <sup>3</sup> を超え た日数とその割合		日平均値の 2%除外値 (mg/m <sup>3</sup> )	長期的評価に よる環境基準 の適否 (適○ 否×)
			(日)	(%)		
鶴見区潮田交流プラザ	0.024	0	0	0	0.064	○
神奈川区総合庁舎	0.022	0	0	0	0.058	○
港北区総合庁舎	0.025	0	0	0	0.064	○
中区加曽台	0.026	0	0	0	0.062	○
磯子区総合庁舎	0.025	0	0	0	0.060	○
保土ヶ谷区桜丘高校	0.024	0	0	0	0.058	○
西区平沼小学校	0.027	0	0	0	0.067	○
金沢区長浜	0.024	0	0	0	0.058	○
鶴見区生麦小学校	0.025	0	0	0	0.063	○
中区本牧	0.022	0	0	0	0.058	○
戸塚区汲沢小学校	0.026	0	0	0	0.065	○
港南区野庭中学校	0.024	0	0	0	0.065	○
旭区鶴ヶ峯小学校	0.021	0	0	0	0.057	○
瀬谷区南瀬谷小学校	0.026	0	0	0	0.065	○
南区横浜商業高校	0.025	0	0	0	0.062	○
栄区上郷小学校	0.024	0	0	0	0.059	○
緑区三保小学校	0.024	0	0	0	0.061	○
青葉区総合庁舎	0.023	0	0	0	0.058	○
都筑区総合庁舎	0.022	0	0	0	0.053	○
泉区総合庁舎	0.026	0	0	0	0.068	○
一般局平均	0.024	—	—	—	0.061	—
鶴見区下末吉小学校	0.025	0	0	0	0.065	○
西区浅間下交差点	0.027	0	0	0	0.064	○
港南中学校	0.025	0	0	0	0.062	○
戸塚区矢沢交差点	0.024	0	0	0	0.057	○
旭区都岡小学校	0.025	0	0	0	0.058	○
青葉台	0.026	0	0	0	0.062	○
資源循環都筑工場前	0.025	0	0	0	0.060	○
磯子区滝頭	0.024	0	0	0	0.055	○
自排局平均	0.025	—	—	—	0.060	—

表 1-8 浮遊粒子状物質年平均値の経年変化（一般局・自排局）

測定局	(mg/m <sup>3</sup> )										
	年度	平成									
	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	
鶴見区潮田交流プラザ	0.033	0.034	0.030	0.028	0.027	0.026	0.027	0.024	0.028	0.024	
神奈川区総合庁舎	0.033	0.032	0.028	0.027	0.025	0.024	0.025	0.023	0.026	0.022	
港北区総合庁舎	0.030	0.031	0.026	0.025	0.024	0.024	0.025	0.023	0.026	0.025	
中区加曽台	0.034	0.033	0.028	0.027	0.025	0.025	0.025	0.023	0.026	0.026	
磯子区総合庁舎	0.033	0.034	0.028	0.028	0.025	0.026	0.025	0.024	0.027	0.025	
保土ヶ谷区桜丘高校	0.032	0.030	0.027	0.025	0.024	0.024	0.023	0.022	0.023	0.024	
西区平沼小学校	0.034	0.035	0.030	0.028	0.027	0.028	0.027	0.023	0.027	0.027	
金沢区長浜	0.029	0.028	0.027	0.026	0.024	0.024	0.023	0.024	0.024	0.024	
鶴見区生麦小学校	0.032	0.032	0.028	0.027	0.024	0.025	0.025	0.022	0.025	0.025	
中区本牧	0.032	0.031	0.028	0.028	0.025	0.025	0.026	0.023	0.027	0.022	
戸塚区汲沢小学校	0.031	0.031	0.029	0.027	0.026	0.026	0.025	0.023	0.026	0.026	
港南区野庭中学校	0.031	0.032	0.028	0.025	0.024	0.022	0.023	0.021	0.023	0.024	
旭区鶴ヶ峯小学校	0.032	0.030	0.028	0.026	0.023	0.024	0.024	0.023	0.026	0.021	
瀬谷区南瀬谷小学校	0.035	0.034	0.030	0.028	0.027	0.026	0.026	0.025	0.028	0.026	
南区横浜商業高校	0.031	0.030	0.028	0.027	0.026	0.025	0.025	0.022	0.026	0.025	
栄区上郷小学校	0.030	0.030	0.027	0.027	0.025	0.025	0.024	0.021	0.023	0.024	
緑区三保小学校	0.031	0.032	0.028	0.026	0.024	0.024	0.023	0.022	0.024	0.024	
青葉区総合庁舎	0.032	0.031	0.027	0.026	0.024	0.023	0.024	0.023	0.025	0.023	
都筑区総合庁舎	0.029	0.029	0.026	0.024	0.023	0.023	0.023	0.022	0.025	0.022	
泉区総合庁舎	0.031	0.031	0.028	0.026	0.025	0.025	0.023	0.022	0.025	0.026	
一般局平均	0.032	0.032	0.028	0.027	0.025	0.025	0.025	0.023	0.026	0.024	
鶴見区下末吉小学校	0.035	0.035	0.029	0.030	0.026	0.026	0.027	0.024	0.027	0.025	
西区浅間下交差点	0.038	0.037	0.031	0.029	0.028	0.026	0.027	0.025	0.027	0.027	
港南中学校	0.032	0.033	0.029	0.026	0.025	0.024	0.024	0.022	0.025	0.025	
戸塚区矢沢交差点	0.034	0.030	0.027	0.027	0.025	0.025	0.025	0.023	0.026	0.024	
旭区都岡小学校	0.033	0.032	0.027	0.028	0.026	0.027	0.026	0.024	0.027	0.025	
青葉台	0.036	0.035	0.031	0.029	0.028	0.026	0.025	0.024	0.026	0.026	
資源循環都筑工場前	0.031	0.032	0.028	0.027	0.025	0.024	0.023	0.021	0.023	0.025	
磯子区滝頭	0.034	0.033	0.029	0.028	0.025	0.024	0.026	0.022	0.025	0.024	
自排局平均	0.034	0.033	0.029	0.028	0.026	0.025	0.025	0.023	0.026	0.025	

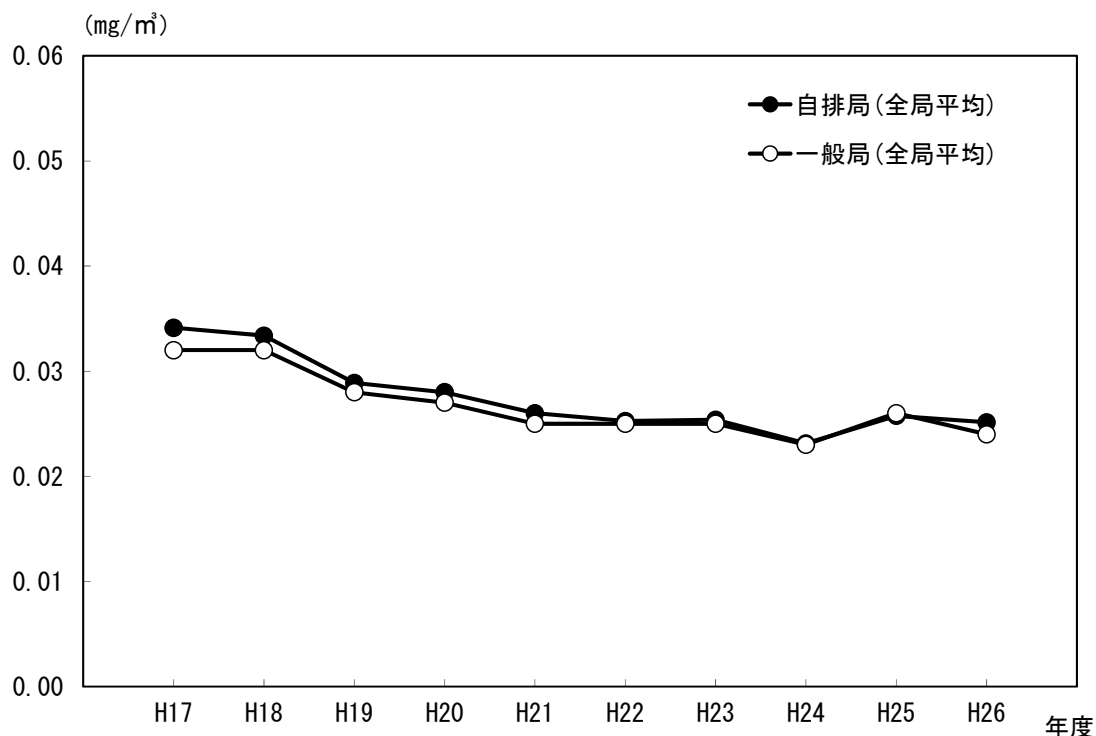


図 1-8 浮遊粒子状物質の年平均値の経年変化

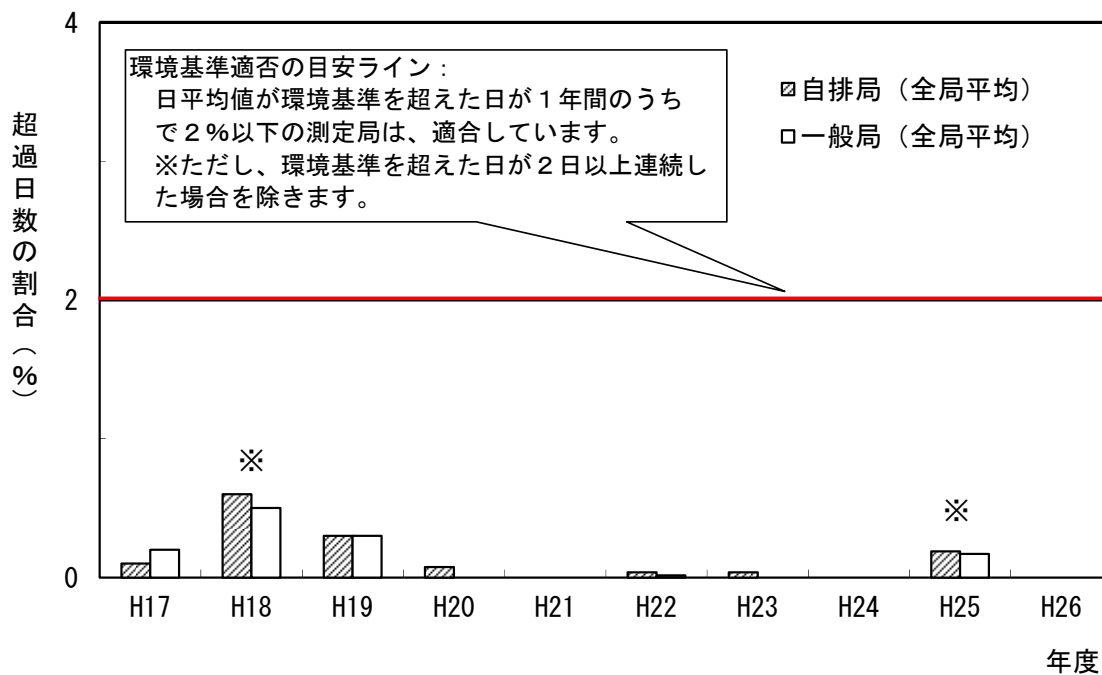


図 1-9 浮遊粒子状物質の日平均値が環境基準値 (0.10 mg / m³) を超えた日数の割合

(4) 二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>)

表 1-9 平成26年度 二酸化窒素の年間測定結果 (一般局・自排局)

測定局	年平均値 (ppm)	日平均値が 0.06ppmを超えた 日数とその割合		日平均値の 年間98%値 (ppm)	98%値評価に よる日平均値 が0.06ppmを 超えた日数 (日)	98%値評価に よる環境基準 の適否 (適○ 否×)
		(日)	(%)			
鶴見区潮田交流プラザ	0.019	0	0	0.041	0	○
神奈川区総合庁舎	0.018	0	0	0.036	0	○
港北区総合庁舎	0.017	0	0	0.034	0	○
中区加曽台	0.018	0	0	0.033	0	○
磯子区総合庁舎	0.018	0	0	0.036	0	○
保土ヶ谷区桜丘高校	0.016	0	0	0.034	0	○
西区平沼小学校	0.018	0	0	0.038	0	○
金沢区長浜	0.013	0	0	0.032	0	○
鶴見区生麦小学校	0.019	0	0	0.039	0	○
中区本牧	0.018	0	0	0.037	0	○
戸塚区汲沢小学校	0.013	0	0	0.028	0	○
港南区野庭中学校	0.014	0	0	0.033	0	○
旭区鶴ヶ峯小学校	0.015	0	0	0.032	0	○
瀬谷区南瀬谷小学校	0.014	0	0	0.029	0	○
南区横浜商業高校	0.017	0	0	0.036	0	○
栄区上郷小学校	0.013	0	0	0.032	0	○
緑区三保小学校	0.014	0	0	0.029	0	○
青葉区総合庁舎	0.017	0	0	0.031	0	○
都筑区総合庁舎	0.016	0	0	0.033	0	○
泉区総合庁舎	0.015	0	0	0.032	0	○
一般局平均	0.016	—	—	0.034	—	—
鶴見区下末吉小学校	0.022	0	0	0.041	0	○
西区浅間下交差点	0.026	0	0	0.041	0	○
港南中学校	0.020	0	0	0.038	0	○
戸塚区矢沢交差点	0.019	0	0	0.034	0	○
旭区都岡小学校	0.021	0	0	0.039	0	○
青葉台	0.021	0	0	0.039	0	○
資源循環都筑工場前	0.017	0	0	0.033	0	○
磯子区滝頭	0.022	0	0	0.040	0	○
自排局平均	0.021	—	—	0.038	—	—

表 1-10 二酸化窒素の年平均値の経年変化（一般局・自排局）

測定局	(ppm)										
	年度	平成									
	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	
鶴見区潮田交流プラザ	0.029	0.027	0.025	0.023	0.022	0.024	0.019	0.022	0.019	0.019	
神奈川区総合庁舎	0.029	0.027	0.024	0.023	0.022	0.019	0.017	0.019	0.018	0.018	
港北区総合庁舎	0.028	0.026	0.024	0.023	0.022	0.021	0.020	0.018	0.018	0.017	
中区加曽台	0.027	0.026	0.024	0.023	0.022	0.021	0.021	0.019	0.017	0.018	
磯子区総合庁舎	0.028	0.027	0.025	0.024	0.023	0.022	0.020	0.019	0.018	0.018	
保土ヶ谷区桜丘高校	0.025	0.024	0.022	0.020	0.020	0.019	0.020	0.017	0.016	0.016	
西区平沼小学校	0.028	0.027	0.024	0.023	0.023	0.021	0.020	0.021	0.018	0.018	
金沢区長浜	0.020	0.019	0.018	0.017	0.016	0.016	0.016	0.015	0.013	0.013	
鶴見区生麦小学校	0.028	0.026	0.024	0.024	0.021	0.021	0.019	0.015	0.018	0.019	
中区本牧	0.024	0.024	0.022	0.022	0.021	0.019	0.018	0.016	0.016	0.018	
戸塚区汲沢小学校	0.022	0.021	0.019	0.017	0.018	0.017	0.017	0.015	0.012	0.013	
港南区野庭中学校	0.022	0.021	0.018	0.018	0.018	0.015	0.018	0.016	0.013	0.014	
旭区鶴ヶ峯小学校	0.023	0.022	0.020	0.019	0.018	0.014	0.013	0.014	0.014	0.015	
瀬谷区南瀬谷小学校	0.025	0.022	0.021	0.019	0.018	0.017	0.017	0.017	0.014	0.014	
南区横浜商業高校	0.026	0.025	0.023	0.023	0.021	0.021	0.019	0.019	0.017	0.017	
栄区上郷小学校	0.020	0.019	0.018	0.017	0.016	0.016	0.016	0.014	0.013	0.013	
緑区三保小学校	0.021	0.020	0.019	0.018	0.017	0.016	0.015	0.013	0.013	0.014	
青葉区総合庁舎	0.026	0.025	0.022	0.021	0.020	0.020	0.018	0.016	0.017	0.017	
都筑区総合庁舎	0.026	0.024	0.021	0.021	0.020	0.019	0.018	0.017	0.017	0.016	
泉区総合庁舎	0.023	0.022	0.020	0.019	0.019	0.017	0.017	0.015	0.015	0.015	
一般局平均	0.025	0.024	0.022	0.021	0.020	0.019	0.018	0.017	0.016	0.016	
鶴見区下末吉小学校	0.032	0.032	0.028	0.029	0.028	0.026	0.025	0.024	0.022	0.022	
西区浅間下交差点	0.040	0.040	0.036	0.035	0.033	0.030	0.031	0.028	0.027	0.026	
港南中学校	0.031	0.027	0.026	0.024	0.024	0.022	0.023	0.021	0.020	0.020	
戸塚区矢沢交差点	0.028	0.029	0.027	0.026	0.025	0.025	0.024	0.021	0.020	0.019	
旭区都岡小学校	0.030	0.029	0.026	0.025	0.025	0.025	0.022	0.020	0.021	0.021	
青葉台	0.033	0.031	0.029	0.027	0.028	0.026	0.026	0.024	0.022	0.021	
資源循環都筑工場前	0.025	0.025	0.022	0.022	0.022	0.023	0.020	0.018	0.017	0.017	
磯子区滝頭	0.035	0.033	0.031	0.030	0.028	0.026	0.027	0.025	0.022	0.022	
自排局平均	0.032	0.031	0.028	0.027	0.027	0.025	0.025	0.023	0.021	0.021	

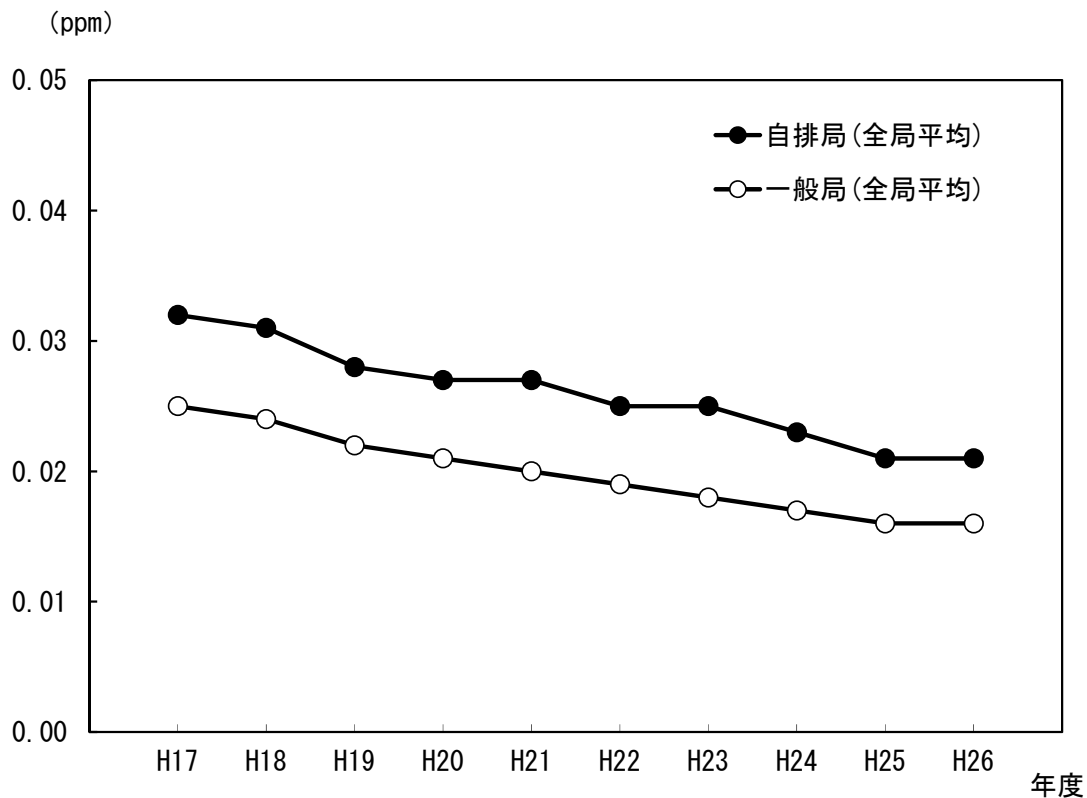


図 1-10 二酸化窒素の年平均値の経年変化

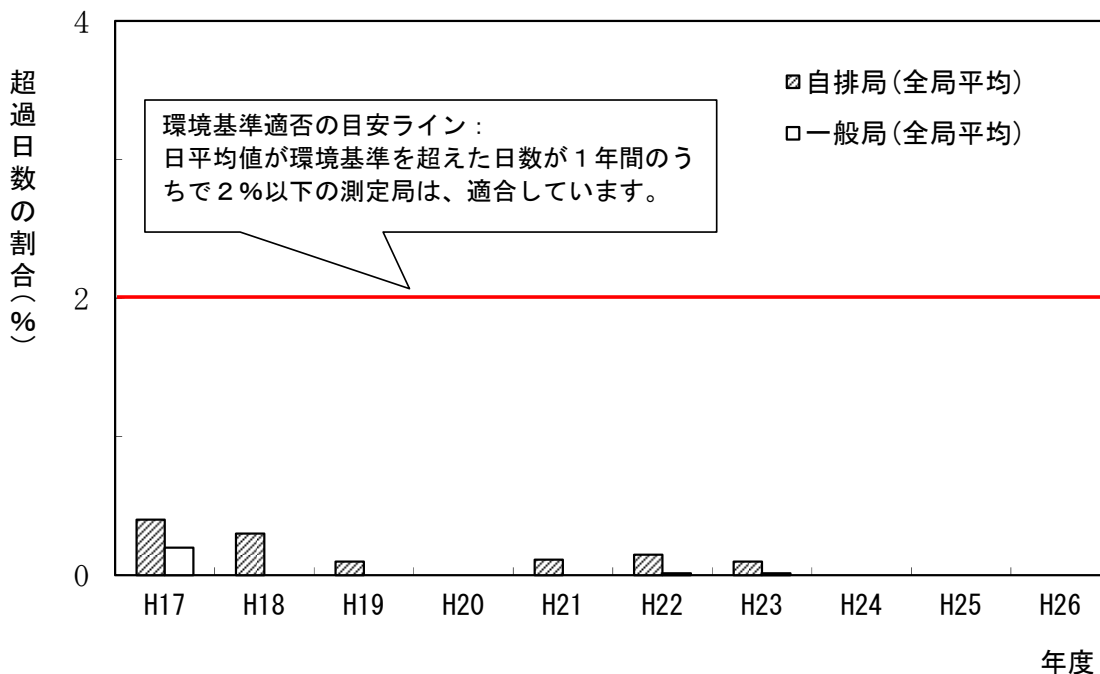


図 1-11 二酸化窒素の日平均値が環境基準値 (0.06 ppm) を超えた日数の割合

## (5) 光化学オキシダント (OX)

表 1-11 平成26年度 光化学オキシダントの年間測定結果 (一般局)

測定局	昼間の1時間値 の年平均値	昼間の1時間値が 0.06ppmを超えた日 数と時間数		昼間の1時間値が 0.12ppm以上の日 数と時間数		昼間の1時間値 の最高値	環境基準の 適否
	(ppm)	(日)	(時間)	(日)	(時間)	(ppm)	(適○ 否×)
鶴見区潮田交流プラザ	0.027	69	238	2	2	0.135	×
神奈川区総合庁舎	0.028	80	365	2	5	0.134	×
港北区総合庁舎	0.029	62	277	1	1	0.125	×
磯子区総合庁舎	0.027	55	223	0	0	0.117	×
保土ヶ谷区桜丘高校	0.030	85	437	3	7	0.146	×
西区平沼小学校	0.029	79	397	2	3	0.142	×
金沢区長浜	0.032	88	454	2	4	0.147	×
鶴見区生麦小学校	0.027	66	258	1	2	0.142	×
中区本牧	0.028	68	312	1	4	0.143	×
戸塚区汲沢小学校	0.033	102	580	2	5	0.133	×
港南区野庭中学校	0.031	88	495	2	3	0.130	×
旭区鶴ヶ峯小学校	0.029	71	340	2	2	0.123	×
瀬谷区南瀬谷小学校	0.030	80	393	2	2	0.123	×
南区横浜商業高校	0.031	92	497	3	6	0.148	×
栄区上郷小学校	0.033	91	554	2	4	0.128	×
緑区三保小学校	0.033	107	563	4	13	0.141	×
青葉区総合庁舎	0.031	97	487	4	9	0.142	×
都筑区総合庁舎	0.031	100	523	5	11	0.141	×
泉区総合庁舎	0.032	92	506	3	4	0.126	×
一般局平均	0.030	—	—	—	—	—	—

表 1-12 平成26年度 光化学スモッグ注意報の発令状況

発令回数	発令日	措置種類	発令時刻	光化学オキシダント濃度の市内最高値			市内届出 被害者数	神奈川県内の 他地域の発令状況
				最高値	測定局	時刻		
1	6月1日(日)	注意報	13:20~ 16:20	0.123 ppm	都筑区総合庁舎	13時	0人	川崎
2	6月2日(月)	注意報	13:20~ 18:20	0.148 ppm	南区横浜商業高校	16時	0人	川崎、相模原、横須賀、 湘南、西湘、県央
3	7月23日(水)	注意報	14:20~ 17:10	0.133 ppm	都筑区総合庁舎	14時	0人	川崎、相模原
4	7月24日(木)	注意報	14:20~ 19:00	0.141 ppm	緑区三保小学校、 都筑区総合庁舎	17時	0人	川崎、相模原、西湘、 県央
5	7月25日(金)	注意報	14:20~ 19:20	0.138 ppm	金沢区長浜	17時	0人	川崎、相模原、横須賀、 湘南、県央

(6) 微小粒子状物質 (PM2.5)

表 1-13 平成26年度 微小粒子状物質の年間測定結果 (一般局・自排局)

測定局	日平均値の 年平均値	日平均値の 年間98%値	日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数とその割合		環境基準 の適否
	( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	(日)	(%)	(適○ 否×)
鶴見区潮田交流プラザ	18.2	44.3	19	5.3	×
神奈川区総合庁舎	15.2	37.8	10	2.8	×
港北区総合庁舎	14.3	37.0	9	2.5	×
磯子区総合庁舎	15.0	41.3	13	3.6	×
保土ヶ谷区桜丘高校	14.1	35.0	7	2.0	○
金沢区長浜	14.1	36.0	10	2.8	×
中区本牧	15.1	38.0	11	3.0	×
港南区野庭中学校	13.1	34.7	7	1.9	○
旭区鶴ヶ峯小学校	14.1	39.3	10	2.8	×
瀬谷区南瀬谷小学校	15.7	36.4	8	2.2	×
南区横浜商業高校	14.6	38.1	10	2.8	×
栄区上郷小学校	13.7	35.5	8	2.2	×
緑区三保小学校	14.0	37.8	9	2.5	×
都筑区総合庁舎	14.5	39.4	9	2.5	×
泉区総合庁舎	15.5	44.3	17	4.7	×
一般局平均	14.7	38.3	—	—	—
西区浅間下交差点	16.4	40.8	11	3.0	×
戸塚区矢沢交差点	15.5	39.1	11	3.0	×
青葉台	18.5	44.8	18	5.0	×
自排局平均	16.8	41.6	—	—	—



## 3 有害大気汚染物質の常時監視測定結果

表 1-14 平成26年度 環境基準が設定されている4物質の測定結果

属性	測定局	測定項目			
		ベンゼン $\mu\text{g}/\text{m}^3$	トリクロロ エチレン $\mu\text{g}/\text{m}^3$	テトラクロロ エチレン $\mu\text{g}/\text{m}^3$	ジクロロ メタン $\mu\text{g}/\text{m}^3$
一般環境	緑区三保小学校	1.1	0.29	0.17	1.1
固定発生源 周辺	鶴見区潮田交流プラザ	1.3	0.33	0.21	1.9
	中区本牧	1.2	0.23	0.13	0.95
沿道	戸塚区矢沢交差点	1.2	0.24	0.14	1.1
	磯子区滝頭	1.5	0.23	0.14	1.0

表 1-15 平成26年度 指針値が設定されている9物質の測定結果

属性	測定局	測定項目								
		アクリロ ニトリル $\mu\text{g}/\text{m}^3$	塩化ビニル モノマー $\mu\text{g}/\text{m}^3$	クロロ ホルム $\mu\text{g}/\text{m}^3$	1,2- ジクロロ エタン $\mu\text{g}/\text{m}^3$	水銀及び その化合物 $\text{ng}/\text{m}^3$	ニッケル 化合物 $\text{ng}/\text{m}^3$	1,3- ブタジエン $\mu\text{g}/\text{m}^3$	ヒ素及び その化合物 $\text{ng}/\text{m}^3$	マンガン 及び その化合物 $\text{ng}/\text{m}^3$
一般環境	緑区三保小学校	0.069	0.044	0.18	0.12	2.2	3.4	0.11	0.87	26
固定発生源 周辺	鶴見区潮田交流プラザ	0.13	0.046	0.22	0.13	2.2	6.8	0.27	1.2	36
	中区本牧	0.098	0.051	0.19	0.13	1.9	6.6	0.11	0.86	23
沿道	戸塚区矢沢交差点	0.063	0.031	0.17	0.19	2.2	3.8	0.16	0.83	23
	磯子区滝頭	0.099	0.047	0.18	0.13	1.9	5.1	0.23	0.83	26

表 1-16 平成26年度 その他10物質の測定結果

属性	測定局	測定項目									
		アセト アルデヒド $\mu\text{g}/\text{m}^3$	クロム及び その化合物 $\text{ng}/\text{m}^3$	酸化 エチレン $\mu\text{g}/\text{m}^3$	ベリリウム 及び その化合物 $\text{ng}/\text{m}^3$	ベンゾ (a) ピレン $\text{ng}/\text{m}^3$	ホルム アルデヒド $\mu\text{g}/\text{m}^3$	四塩化 炭素 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	1,2- ジクロロ プロパン $\mu\text{g}/\text{m}^3$	トルエン $\mu\text{g}/\text{m}^3$	塩化メチル $\mu\text{g}/\text{m}^3$
一般環境	緑区三保小学校	1.7	4.4	0.051	0.020	0.15	2.1	0.61	0.043	6.3	1.4
固定発生源 周辺	鶴見区潮田交流プラザ	1.8	9.4	0.11	0.015	0.19	2.3	0.62	0.040	7.1	1.4
	中区本牧	1.6	4.3	0.052	0.013	0.16	1.8	0.61	0.040	5.3	1.4
沿道	戸塚区矢沢交差点	1.5	4.6	0.074	0.012	0.20	1.7	0.60	0.042	7.9	1.4
	磯子区滝頭	2.0	6.4	0.059	0.014	0.19	2.1	0.61	0.041	7.7	1.4

$\mu\text{g}$  : マイクログラム。1マイクログラムは、100万分の1グラム。

$\text{ng}$  : ナノグラム。1ナノグラムは、10億分の1グラム。

指針値 : 環境基準に準じて国が設定した値

4 大気汚染に関する環境基準等

表 1-17 大気汚染に関する環境基準及び評価方法

物質名	環境基準	評価方法
二酸化硫黄	日平均値が0.04 ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1 ppm以下であること。	長期的評価※ <sup>1</sup>
一酸化炭素	日平均値が10 ppm以下であり、かつ、8時間平均値が20 ppm以下であること。	長期的評価※ <sup>1</sup>
浮遊粒子状物質	日平均値が0.10mg/m <sup>3</sup> 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m <sup>3</sup> 以下であること。	長期的評価※ <sup>1</sup>
二酸化窒素	日平均値が0.04 ppmから0.06 ppmまでのゾーン内、又はそれ以下であること。	98%値評価※ <sup>2</sup>
光化学オキシダント	1時間値が0.06 ppm以下であること。	昼間※ <sup>3</sup>
微小粒子状物質	年平均値が15 µg/m <sup>3</sup> 以下であり、かつ、日平均値が35 µg/m <sup>3</sup> 以下であること。	年平均値の評価及び98%値評価の併用 ※ <sup>4</sup>

※1： 年間の日平均値のうち、高いほうから2%の範囲にあるものを除外した後の最高値（2%除外値）を環境基準と比較して評価する。ただし、環境基準を超える日が2日以上連続した場合は、不適合と評価する。

※2： 年間の日平均値のうち、低いほうから98%に相当するもの（日平均値の年間98%値）を環境基準と比較して評価する。

※3： 5時～20時の測定値を対象とする。

※4： 年平均値が長期基準である15µg/m<sup>3</sup>以下であり、かつ、日平均値の年間98%値が短期基準である35µg/m<sup>3</sup>以下である場合に、適合と評価する。

表 1-18 有害大気汚染物質に関する環境基準・指針値

物質名	環境基準	物質名	指針値
ベンゼン	3 µg/m <sup>3</sup>	アクリロニトリル	2 µg/m <sup>3</sup>
トリクロロエチレン	200 µg/m <sup>3</sup>	塩化ビニルモノマー	10 µg/m <sup>3</sup>
テトラクロロエチレン	200 µg/m <sup>3</sup>	クロロホルム	18 µg/m <sup>3</sup>
ジクロロメタン	150 µg/m <sup>3</sup>	1,2-ジクロロエタン	1.6 µg/m <sup>3</sup>
年平均値が各環境基準値・指針値以下であること。		水銀及びその化合物	40 ng/m <sup>3</sup>
		ニッケル化合物	25 ng/m <sup>3</sup>
		1,3-ブタジエン	2.5 µg/m <sup>3</sup>
		ヒ素及びその化合物	6 ng/m <sup>3</sup>
		マンガン及びその化合物	0.14 µg/m <sup>3</sup>

## 第2 平成26年度 水質汚濁の状況

## 1 公共用水域及び中小河川の水質状況

## (1) 公共用水域の水質測定内容及び中小河川の水質調査内容

表 2-2 公共用水域（河川）の水質測定地点

水域名	支川名	測定地点	類型	測定機関
鶴見川上流	恩田川 大熊川 鳥山川	千代橋	D	横浜市
		●亀の子橋	D	国土交通省
		都橋	(D)	横浜市
		大竹橋	(D)	国土交通省
		又口橋	(D)	国土交通省
鶴見川下流	早湊川 矢上川	●大綱橋	E	国土交通省
		末吉橋	E	国土交通省
		●臨港鶴見川橋	E	国土交通省
		峯大橋	(E)	国土交通省
		矢上川橋	(E)	国土交通省
入江川		●入江橋	B	横浜市
帷子川		●水道橋	B	横浜市
大岡川		●清水橋	B	横浜市
宮川		●瀬戸橋	B	横浜市
侍従川		●平潟橋	B	横浜市
境川 <sup>※2</sup>	柏尾川 柏尾川 いたち川	鶴間橋	D	大和市
		新道大橋	D	大和市
		高鎌橋	D	横浜市
		吉倉橋	C	横浜市
		鷹匠橋	C	横浜市
		いたち川橋	C	横浜市

※1：●は環境基準点（その水域の水質を代表する地点）※2：環境基準点は境川橋（藤沢市）

※3：カッコ内は類型指定していないため、流入先の本川の類型を示す

表 2-3 公共用水域（海域）の水質測定地点

水域名	測定地点	類型	測定機関
東京湾 6	●鶴見川河口先	C	横浜市
	●横浜港内	C	横浜市
東京湾 7	●磯子沖	C	横浜市
東京湾 10	●平潟湾内	B	横浜市
東京湾 12	●本牧沖	B	横浜市
	●富岡沖	B	横浜市
	平潟湾沖	B	横浜市

※：●は環境基準点（その水域の水質を代表する地点）

表 2-4 中小河川の水質測定地点

水域名	支川名	測定地点	類型
鶴見川※ <sup>2</sup>	砂田川	団地入口橋※ <sup>1</sup>	(D)
	黒須田川	耕地橋	(D)
	布川	荏田管理橋	(D)
	寺家川	宮前橋	(D)
	鴨志田川	鴨志田管理橋	(D)
	奈良川	神前橋	(D)
	大場川	竹の下橋	(D)
	鴨居川	鴨居橋	(D)
	岩川	屋敷橋	(D)
	台村川	三台橋	(D)
	しらとり川	真橋	(D)
帷子川	堀谷戸川	中井橋	B
	矢指川	耕地橋	B
	今井川	八幡橋	B
	中堀川	浜串橋	B
	二俣川	四季美橋	B
	新井川	分水路際※ <sup>2</sup>	B
	くぬぎだい川	原下橋	B
	菅田川	新川島橋	B
大岡川	日野川	港南橋	B
境川	大門川	中川橋	D
	相沢川	童橋	D
	和泉川	鍋屋橋	D
	宇田川	宇田川橋	D
	阿久和川	トーヨー橋	C
	平戸永谷川	渡戸橋	C
	舞岡川	元舞橋	C

※1：橋の名称がないため便宜的につけた

※2：鶴見川上流域の類型を準用



図 2-2 公共用水域の水質測定及び中小河川の水質調査地点

表 2-5 公共用水域の水質測定及び中小河川の水質調査内容

測定内容	公共用水域水質測定	中小河川水質調査
測定期間	平成26年4月～平成27年3月	
測定地点	河川：21地点 海域：7地点	河川：27地点
測定項目	健康項目：27項目 ※1 生活環境項目：12項目 ※2 特殊項目：7項目 ※3 その他項目：8項目 ※4 観測項目：13項目 ※5	生活環境項目：4項目 ※2
測定回数	年12回（月1回）	年2回
測定方法	河川：2回採水 海域：1回採水 （上層(表層)・下層)	1回採水

※1： 人の健康を保護する上で維持されることが望ましい基準として環境基準が定められた 27項目（カドミウム、全シアン、鉛など）。

※2： 生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準として環境基準が定められた 12項目（pH、BOD、CODなど）。

**BOD及びCODの評価方法**

水域類型が指定されている環境基準点において、「75%水質値」が類型の環境基準に適合している場合に、当該水域が環境基準を達成していると評価する。

（75%水質値：年間の日間平均値の全データをその値の小さいものから順に並べた時の0.75×n番目（nは日間平均値のデータ数）のデータ値）

※3： 法・条例の排水規制の対象である7項目（フェノール類、銅、溶解性鉄など）。

※4： 環境基準の達成状況を判断する上で必要な8項目（アンモニア性窒素、磷酸態磷、電気伝導率など）。

※5： 採水時に現場にて観測する13項目（天候、前日天候、水深など）。

## (2) 公共用水域の水質測定及び中小河川の水質調査結果

表 2-6 平成26年度 健康項目の環境基準適合地点数

項 目	調査地点数		環境基準 適合地点数		適合率		項 目	調査地点数		環境基準 適合地点数		適合率	
	河川	海域	河川	海域	河川	海域		河川	海域	河川	海域	河川	海域
カドミウム	16	7	16	7	100%	100%	1,1,2-トリクロロエタン	16	7	16	7	100%	100%
全シアン	16	7	16	7	100%	100%	トリクロロエチレン	16	7	16	7	100%	100%
鉛	16	7	16	7	100%	100%	テトラクロロエチレン	16	7	16	7	100%	100%
六価クロム	16	7	16	7	100%	100%	1,3-ジクロロプロペン	16	7	16	7	100%	100%
砒素	16	7	16	7	100%	100%	チウラム	16	7	16	7	100%	100%
総水銀	16	7	16	7	100%	100%	シマジン	16	7	16	7	100%	100%
アルキル水銀	0	0	—	—	—	—	チオベンカルブ	16	7	16	7	100%	100%
P C B	9	7	9	7	100%	100%	ベンゼン	16	7	16	7	100%	100%
ジクロロメタン	16	7	16	7	100%	100%	セレン	16	7	16	7	100%	100%
四塩化炭素	16	7	16	7	100%	100%	硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	21	7	21	7	100%	100%
1,2-ジクロロエタン	16	7	16	7	100%	100%	ふっ素	9	—	9	—	100%	—
1,1-ジクロロエチレン	16	7	16	7	100%	100%	ほう素	9	—	9	—	100%	—
シス-1,2-ジクロロエチレン	16	7	16	7	100%	100%	1,4-ジオキサン	16	7	16	7	100%	100%
1,1,1-トリクロロエタン	16	7	16	7	100%	100%							

表 2-7 平成26年度 生活環境項目の環境基準適合検体数

水域	測定項目	調査検体数			環境基準適合状況					
					適合検体数			適合率		
		公共用水域	中小河川	計	公共用水域	中小河川	計	公共用水域	中小河川	計
河川	水素イオン濃度 (pH)	492	54	546	478	44	522	97%	81%	96%
	生物化学的酸素要求量 (BOD)	492	54	546	478	52	530	97%	96%	97%
	溶存酸素量 (DO)	492	54	546	480	54	534	98%	100%	98%
	浮遊物質 (SS)	492	—	492	492	—	492	100%	—	100%
	計	1,968	162	2,130	1,928	150	2,078	98%	93%	98%
海域	水素イオン濃度 (pH)	84	—	84	58	—	58	69%	—	69%
	化学的酸素要求量 (COD)	84	—	84	65	—	65	77%	—	77%
	溶存酸素量 (DO)	84	—	84	84	—	84	100%	—	100%
	n-ヘキサン抽出物質	84	—	84	84	—	84	100%	—	100%
	全窒素	84	—	84	72	—	72	86%	—	86%
	全燐	84	—	84	57	—	57	68%	—	68%
	計	504	—	504	420	—	420	83%	—	83%
総計	2,472	162	2,634	2,348	150	2,498	95%	93%	95%	

注：基準の適合率が99%を超え100%未満の場合は、99%と表示した。




表 2-8 河川 BOD75%水質値の経年変化 (公共用水域水質測定)

				(mg/L)									
水域名	類型	河川名	測定地点名	H17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
鶴見川	D	鶴見川	千代橋	8.4	5.7	5.5	3.9	2.9	3.9	4.5	5.4	5.8	4.7
	D	〃	亀の子橋	9.4	8.2	7.6	5.9	6.3	3.8	6.4	4.4	4.3	3.7
	E	〃	大綱橋	8.2	7.2	5.6	5.0	4.7	3.3	3.8	3.6	4.0	3.1
	E	〃	末吉橋	2.4	2.1	2.6	2.1	2.1	2.1	2.7	1.9	1.7	1.8
	E	〃	臨港鶴見川橋	2.5	1.5	1.6	1.5	1.8	1.8	2.4	1.7	1.9	2.4
	(D)	恩田川	都橋	11	12	11	10	5.8	5.2	6.8	6.4	6.3	7.0
	(D)	大熊川	大竹橋	2.1	2.1	1.4	1.1	1.7	1.5	1.9	1.0	1.4	1.4
	(D)	鳥山川	又口橋	2.3	1.4	1.5	1.2	1.2	1.4	1.5	1.1	1.2	1.3
	(E)	早濑川	峯大橋	2.0	1.7	1.5	1.1	1.9	1.4	1.6	1.1	1.5	1.8
	(E)	矢上川	矢上川橋	2.4	3.4	2.6	2.2	2.1	2.4	3.0	2.4	2.7	2.2
入江川	B*	入江川	入江橋	1.4	1.6	1.5	1.3	2.0	1.9	1.8	2.1	2.4	1.6
帷子川	B*	帷子川	水道橋	1.6	1.1	1.0	0.8	1.4	1.6	1.3	1.2	1.3	1.3
大岡川	B*	大岡川	清水橋	2.4	1.5	1.6	1.5	1.6	1.8	1.9	1.7	2.3	1.9
宮川	B*	宮川	瀬戸橋	1.5	1.3	1.2	1.1	1.1	1.8	2.1	1.6	1.6	2.0
侍従川	B*	侍従川	平潟橋	1.9	2.6	1.0	1.3	1.4	3.0	2.9	2.5	2.3	2.7
境川	D	境川	鶴間橋	2.6	2.2	2.9	1.6	1.4	0.9	1.2	1.1	1.2	0.9
	D	〃	新道大橋	4.3	4.3	7.2	4.7	3.0	2.4	3.6	2.2	2.1	1.9
	D	〃	高鎌橋	5.7	3.4	5.8	2.7	2.3	2.2	2.5	1.7	1.8	2.0
	C*	柏尾川	吉倉橋	2.0	1.5	1.2	1.0	1.3	2.3	1.7	1.4	1.5	1.3
	C*	〃	鷹匠橋	4.5	2.8	3.5	3.4	3.1	2.8	3.0	3.0	3.7	2.5
	C*	いたち川	いたち川橋	2.7	2.1	2.1	1.6	1.5	2.0	2.2	1.9	2.6	1.6
適合率(%)				86	90	95	95	100	100	100	100	100	100

注：環境基準 B = 3mg/L以下 (平成12年度から適用)

環境基準 C = 5mg/L以下

 : 環境基準不適合

環境基準 D = 8mg/L以下

環境基準 E = 10mg/L以下

類型が B\* と示してある地点の類型は従来 E であったが、平成12年度から B に変更された。

類型が C\* と示してある地点の類型は従来 D であったが、平成25年度から C に変更された。

表 2-9 河川 BOD 年平均値の経年変化（公共用水域水質測定）

水域名	類型	河川名	測定地点名	(mg/L)									
				H17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
鶴見川	D	鶴見川	千代橋	5.9	4.8	4.1	3.0	2.8	3.5	3.9	5.1	4.8	3.7
	D	〃	亀の子橋	7.6	7.1	5.2	4.6	4.1	3.8	5.2	3.6	3.8	3.2
	E	〃	大綱橋	6.0	5.7	4.3	3.7	3.6	2.8	3.7	3.2	3.4	2.8
	E	〃	末吉橋	2.1	2.2	2.2	2.0	1.9	1.7	1.9	1.6	1.7	1.8
	E	〃	臨港鶴見川橋	2.3	1.6	1.6	1.5	1.7	1.6	2.0	1.5	1.7	1.8
	(D)	恩田川	都橋	9.8	10	8.5	8.1	4.8	4.1	5.4	4.5	5.4	6.0
	(D)	大熊川	大竹橋	1.7	1.7	1.6	1.0	1.4	1.4	1.7	1.0	1.3	1.2
	(D)	鳥山川	又口橋	2.0	1.2	1.7	1.2	1.1	1.1	1.2	1.1	1.3	1.2
	(E)	早渕川	峯大橋	1.8	1.7	1.6	1.2	1.6	1.2	1.5	1.0	1.5	1.4
	(E)	矢上川	矢上川橋	2.5	2.5	3.1	2.1	2.0	2.2	2.8	2.3	2.6	2.1
入江川	B*	入江川	入江橋	1.5	1.6	1.2	1.3	1.8	1.6	1.7	1.8	1.9	1.5
帷子川	B*	帷子川	水道橋	1.8	0.9	1.1	1.1	1.1	1.5	1.2	1.1	1.2	1.3
大岡川	B*	大岡川	清水橋	2.2	1.7	1.3	1.6	1.3	2.1	1.6	1.6	1.8	1.7
宮川	B*	宮川	瀬戸橋	1.3	1.4	1.2	1.0	0.9	1.6	1.9	1.4	1.4	1.6
侍従川	B*	侍従川	平潟橋	1.5	2.5	1.2	1.3	1.2	2.4	2.3	2.1	1.7	1.9
境川	D	境川	鶴間橋	2.1	1.7	2.4	1.6	1.3	0.9	1.1	1.0	1.2	0.8
	D	〃	新道大橋	4.0	3.2	5.8	3.4	2.7	2.1	3.0	1.9	2.5	1.7
	D	〃	高鎌橋	3.8	3.0	3.9	2.4	1.8	2.1	2.3	1.5	1.6	1.5
	C*	柏尾川	吉倉橋	1.9	1.3	1.4	1.1	1.0	2.1	1.4	1.2	1.3	1.2
	C*	〃	鷹匠橋	4.0	2.5	2.7	2.7	3.3	3.5	2.6	2.6	3.2	2.2
	C*	いたち川	いたち川橋	2.3	3.9	1.6	1.5	1.3	1.7	1.9	1.8	2.3	1.5

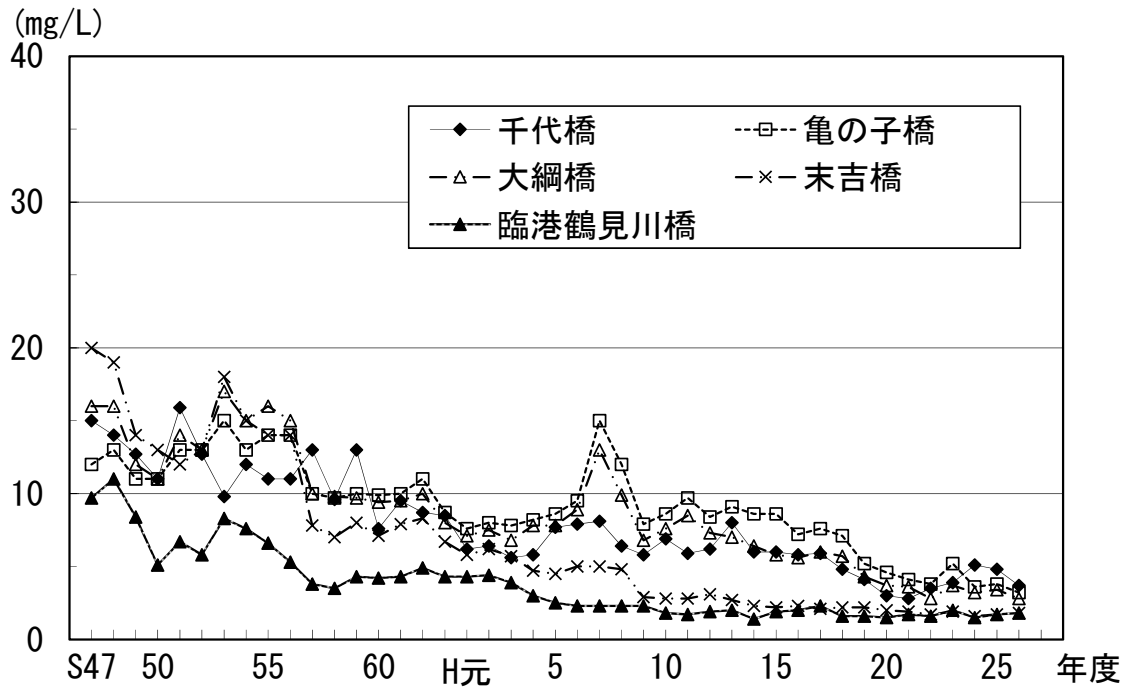


図 2-3 鶴見川本川 BOD 年平均値の経年変化 (公共用水域水質測定)

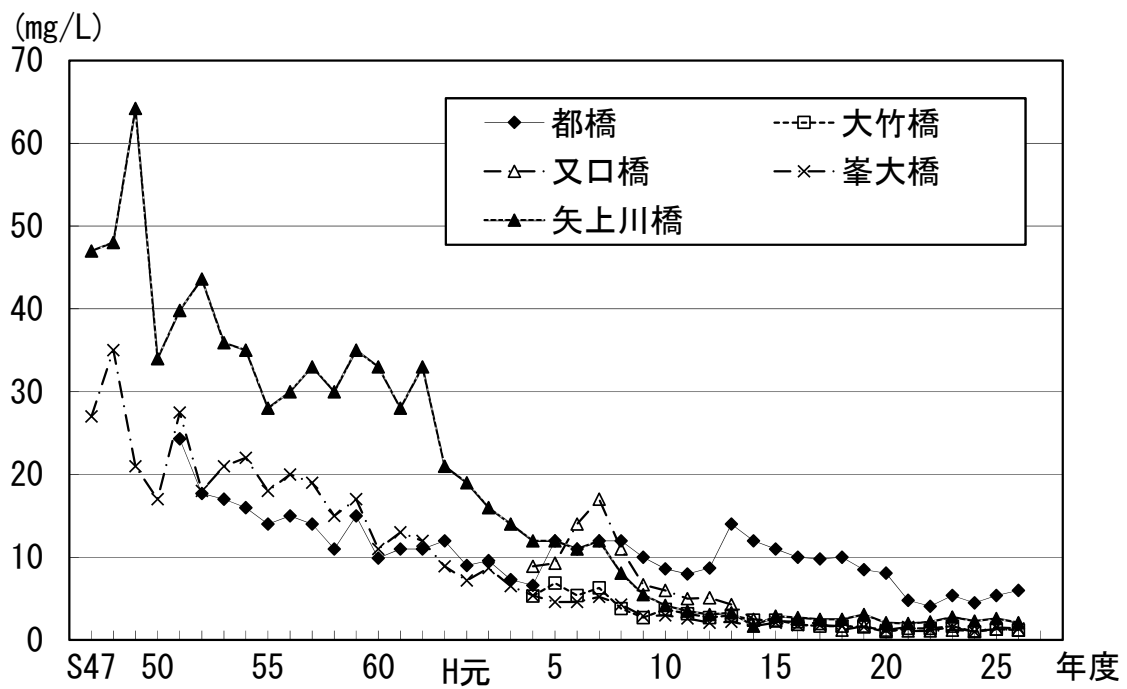


図 2-4 鶴見川支川 BOD 年平均値の経年変化 (公共用水域水質測定)

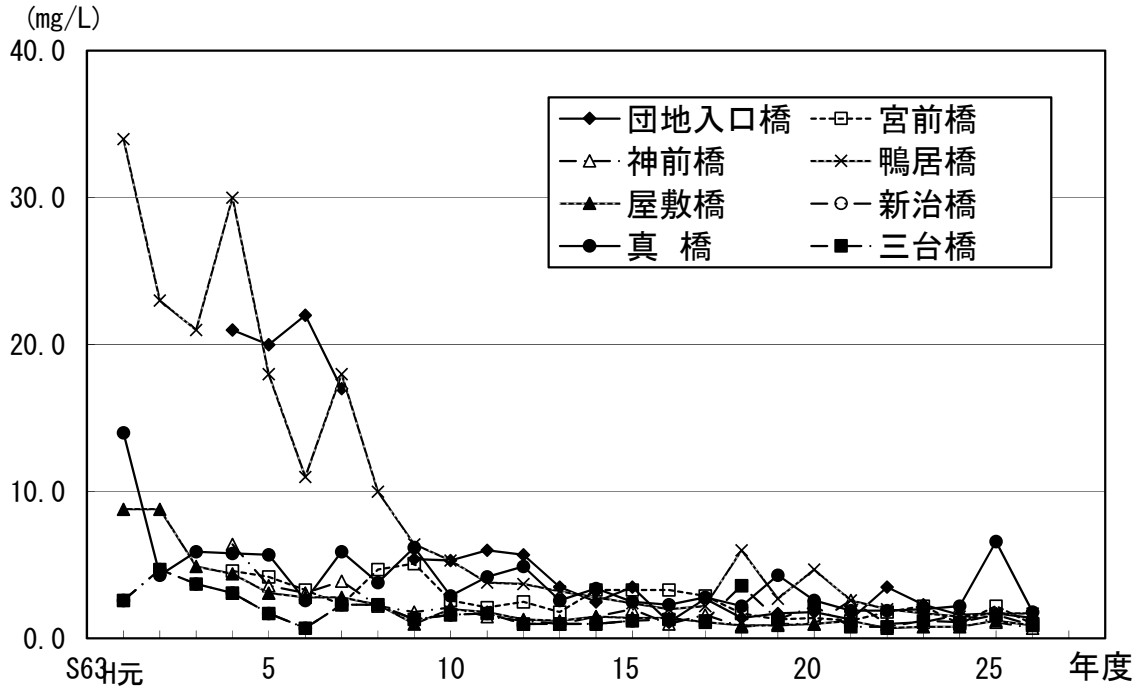


図 2-5 鶴見川支川 BOD 年平均値の経年変化 (中小河川水質調査)

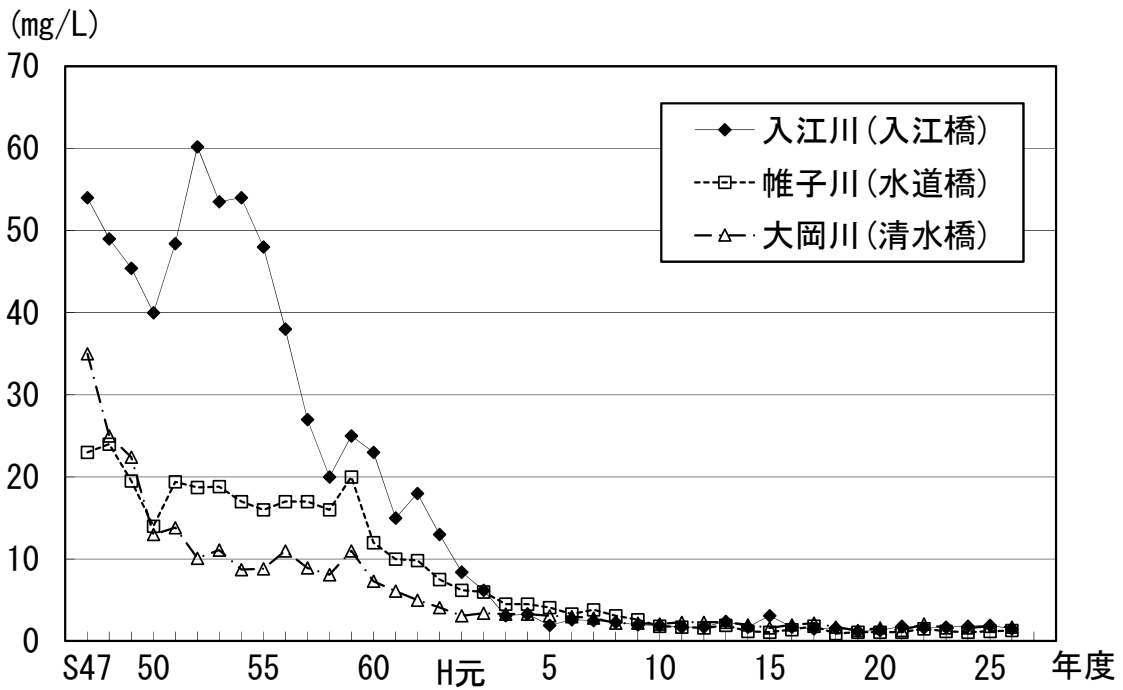


図 2-6 入江川・帷子川・大岡川 BOD 年平均値の経年変化 (公共用水域水質測定)

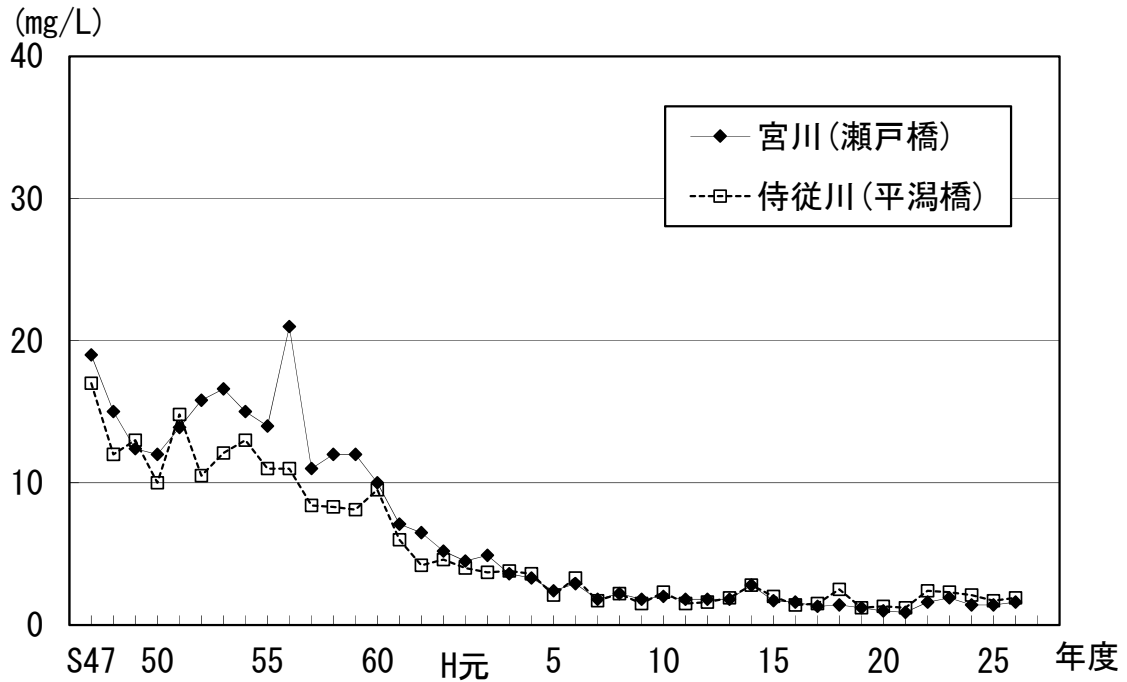


図 2-7 宮川・侍従川 BOD 年平均値の経年変化 (公共用水域水質測定)

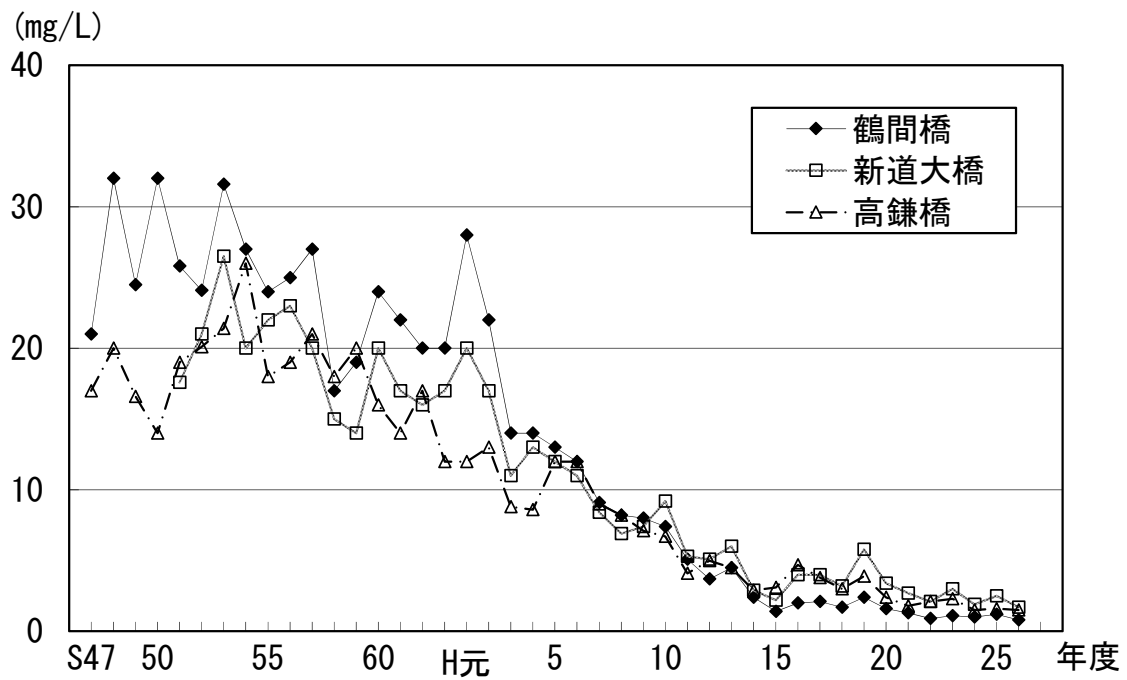


図 2-8 境川本川 BOD 年平均値の経年変化 (公共用水域水質測定)

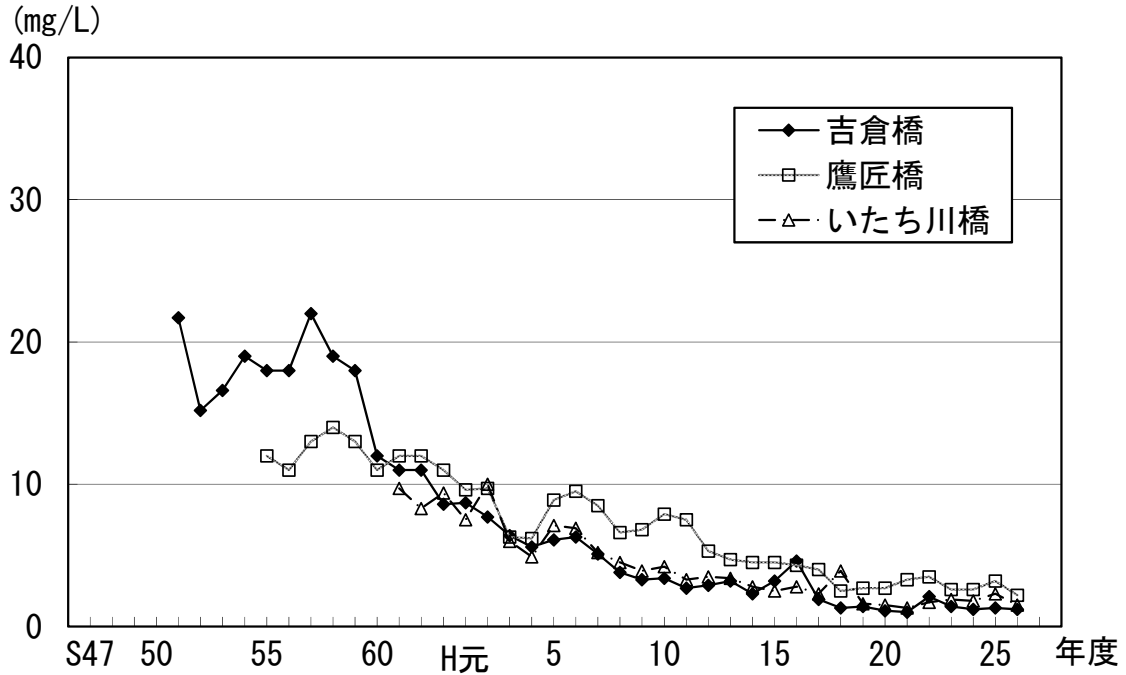


図 2-9 境川支川 BOD 年平均値の経年変化（公共用水域水質測定）

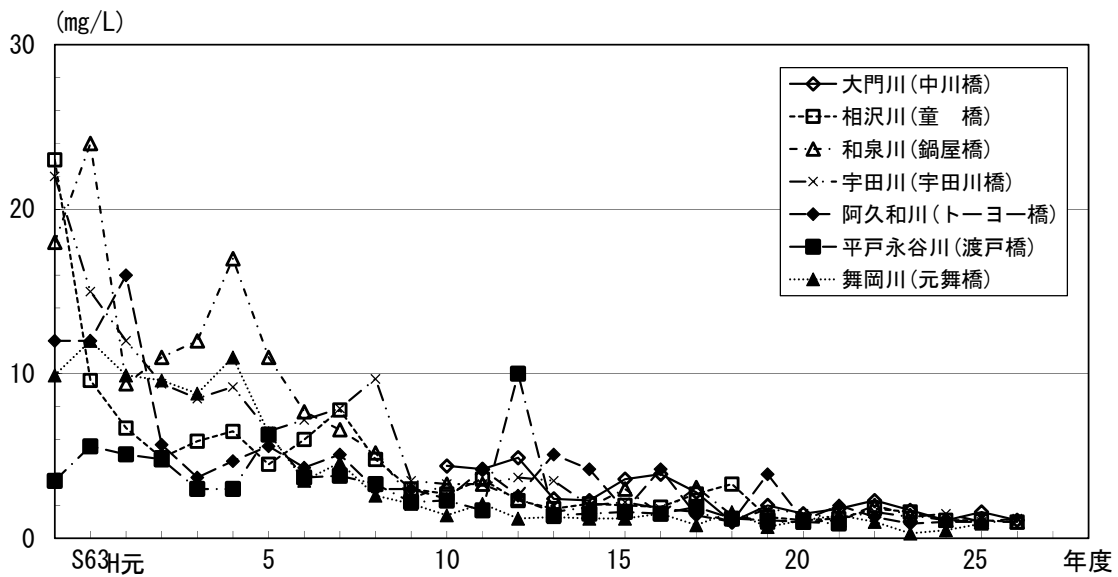


図 2-10 境川支川 BOD 年平均値の経年変化（中小河川水質調査）

表 2-10 中小河川 BOD 年平均値の経年変化 (中小河川水質調査)

			(mg/L)										
水域名	類型	測定地点名	H17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	
鶴見川	砂田川	(D)	団地入口橋	2.7	1.4	1.7	1.8	1.3	3.5	2.3	1.6	1.7	1.4
	黒須田川	(D)	耕地橋	2.2	2.0	1.3	1.9	1.3	1.1	1.1	0.8	1.2	0.9
	布川	(D)	荏田管理橋	1.7	1.5	1.3	1.3	1.5	1.8	1.9	2.3	3.5	1.3
	寺家川	(D)	宮前橋	2.9	1.7	1.3	1.4	1.2	1.8	2.2	1.0	2.2	1.0
	鴨志田川	(D)	鴨志田管理橋	2.6	2.6	2.4	1.6	2.5	2.3	2.9	1.5	2.2	2.0
	奈良川	(D)	神前橋	1.6	0.8	1.0	1.0	2.6	1.0	1.1	1.6	1.1	0.7
	大場川	(D)	竹の下橋	1.2	1.5	3.0	1.0	1.4	0.7	0.7	0.8	1.2	0.9
	鴨居川	(D)	鴨居橋	2.2	6.0	2.7	4.7	2.6	2.0	1.7	1.5	1.7	1.7
	岩川	(D)	屋敷橋	1.1	0.9	0.9	1.0	1.2	0.7	0.8	0.8	1.2	0.9
	台村川	(D)	三台橋	1.2	3.6	1.3	2.2	0.8	0.8	1.2	1.1	1.6	0.9
	しらとり川	(D)	真橋	2.8	2.2	4.3	2.6	1.9	1.9	2.0	2.2	6.6	1.8
帷子川	堀谷戸川	B*	中井橋	3.8	2.4	11	1.7	1.0	1.2	2.2	1.5	2.7	0.9
	矢指川	B*	耕地橋	2.7	3.4	3.2	1.7	1.2	2.1	3.5	3.3	3.0	2.1
	今井川	B*	八幡橋	2.2	2.4	1.1	1.7	1.7	1.0	1.6	1.3	1.8	1.1
	中堀川	B*	浜串橋	2.4	1.5	1.4	1.5	1.1	1.2	1.5	1.7	2.0	1.3
	二俣川	B*	四季美橋	1.7	1.8	1.7	1.5	1.5	1.5	1.4	1.7	1.5	1.1
	新井川	B*	分水路際	3.4	3.3	2.4	1.3	1.4	3.4	4.2	2.0	2.0	2.5
	くぬぎだい川	B*	原下橋	1.1	0.7	1.1	1.1	0.6	0.5	2.0	1.0	1.6	0.9
	菅田川	B*	新川島橋	4.2	3.3	2.8	3.2	4.4	3.6	4.1	3.7	2.5	3.0
大岡川	B*	港南橋	4.0	1.0	1.2	1.1	1.6	1.8	1.3	0.9	0.9	1.3	
境川	大門川	D	中川橋	2.8	1.0	2.0	1.5	1.8	2.3	1.7	1.1	1.6	1.1
	相沢川	D	童橋	2.7	3.3	1.3	1.1	1.2	1.8	1.6	1.1	1.1	1.0
	和泉川	D	鍋屋橋	3.1	1.4	1.0	1.0	1.1	2.0	1.4	1.1	1.0	1.0
	宇田川	D	宇田川橋	1.6	1.0	1.8	1.5	1.2	1.6	1.3	1.5	1.0	1.2
	阿久和川	C*	トーヨー橋	4.2	1.4	1.0	1.1	1.1	2.0	1.3	0.9	1.0	1.0
	平戸永谷川	C*	渡戸橋	10	1.4	1.5	1.6	1.5	1.9	1.2	1.1	1.0	0.9
	舞岡川	C*	元舞橋	1.5	0.8	1.6	0.7	1.1	1.4	1.0	0.3	0.5	0.9

注：類型がB\*と示してある地点の類型は従来Eであったが、平成12年度からBに変更された。

類型がC\*と示してある地点の類型は従来Dであったが、平成25年度からCに変更された。

鶴見川水系についての類型は鶴見川上流の基準値と比較（準用）している。

表 2-1 1 東京湾 COD75%水質値の経年変化 (公共用水域水質測定)

		(mg/L)										
水域名	類型	測定地点名	H17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
東京湾 6	C	鶴見川河口先	4.5	5.5	4.4	3.6	4.6	4.3	4.1	3.9	3.7	4.7
		横浜港内	4.0	5.2	3.9	3.4	4.5	3.6	3.7	3.2	3.7	4.2
東京湾 7	C	磯子沖	3.3	4.2	3.1	3.2	3.3	2.8	2.8	2.5	3.2	3.9
東京湾 10	B	平潟湾内	4.4	4.2	4.0	3.8	4.6	3.3	3.2	3.3	3.5	4.3
東京湾 12	B	本牧沖	3.7	3.4	3.2	3.2	3.3	3.3	3.0	2.8	2.3	3.6
		富岡沖	3.3	3.8	2.9	2.9	3.3	2.8	2.7	2.6	3.2	3.5
		平潟湾沖	3.3	3.2	2.6	2.8	2.8	2.9	2.7	2.6	2.6	3.4
適合率 (%)			43	43	71	71	57	71	86	86	71	43

注：環境基準 B = 3mg/L以下

環境基準 C = 8mg/L以下

: 環境基準不適合

表 2-1 2 東京湾 COD 年平均値の経年変化 (公共用水域水質測定)

		(mg/L)										
水域名	類型	測定地点名	H17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
東京湾 6	C	鶴見川河口先	4.0	4.5	4.1	3.7	4.2	3.5	3.6	3.4	3.4	3.6
		横浜港内	3.6	3.9	3.3	3.4	3.6	3.0	3.2	3.0	3.2	3.4
東京湾 7	C	磯子沖	2.8	3.2	2.8	2.9	3.0	2.4	2.6	2.4	2.7	3.0
東京湾 10	B	平潟湾内	3.4	3.7	3.4	3.3	3.7	2.9	3.2	2.8	3.0	3.3
東京湾 12	B	本牧沖	2.8	2.9	2.6	2.7	2.7	2.5	2.7	2.3	2.4	2.9
		富岡沖	2.8	3.1	2.5	2.7	2.6	2.5	2.5	2.4	2.6	2.9
		平潟湾沖	2.7	2.7	2.4	2.6	2.6	2.6	2.5	2.3	2.5	2.7



表 2-13 東京湾全窒素年平均値の経年変化（表層）  
（公共用水域水質測定）

水域名	類型	測定地点	(mg/L)									
			H17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
東京湾 (口)	IV	鶴見川河口先	2.1	2.6	2.6	2.2	2.3	2.0	1.8	2.0	1.7	1.6
		横浜港内	1.2	1.3	1.0	1.2	1.1	0.86	0.93	0.93	0.73	0.82
		磯子沖	0.76	0.82	0.72	0.82	0.75	0.59	0.61	0.55	0.50	0.55
		本牧沖	0.86	0.89	0.85	0.91	0.80	0.58	0.70	0.64	0.52	0.61
		富岡沖	0.70	0.76	0.64	0.72	0.69	0.65	0.54	0.49	0.43	0.52
東京湾 (二)	III	平潟湾内	0.76	0.75	0.77	0.78	0.69	0.57	0.67	0.55	0.45	0.52
		平潟湾沖	0.72	0.76	0.76	0.76	0.67	0.55	0.58	0.48	0.42	0.50
適合率(%)			43	43	57	43	43	86	71	86	86	86

注：環境基準III類型=0.6mg/L以下

環境基準IV類型=1mg/L以下

□：環境基準不適合

環境基準の適否は、類型指定された平成7年度から評価を行っている。

表 2-14 東京湾全燐年平均値の経年変化（表層）  
（公共用水域水質測定）

水域名	類型	測定地点	(mg/L)									
			H17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
東京湾 (口)	IV	鶴見川河口先	0.16	0.19	0.20	0.15	0.17	0.15	0.12	0.15	0.12	0.14
		横浜港内	0.088	0.12	0.080	0.10	0.089	0.072	0.067	0.079	0.058	0.082
		磯子沖	0.055	0.068	0.053	0.064	0.059	0.055	0.042	0.043	0.039	0.051
		本牧沖	0.068	0.070	0.065	0.078	0.067	0.065	0.053	0.054	0.041	0.059
		富岡沖	0.054	0.063	0.050	0.055	0.056	0.056	0.040	0.042	0.036	0.046
東京湾 (二)	III	平潟湾内	0.070	0.078	0.066	0.067	0.069	0.051	0.060	0.054	0.044	0.055
		平潟湾沖	0.059	0.066	0.074	0.069	0.062	0.059	0.046	0.042	0.037	0.049
適合率(%)			57	43	57	43	57	57	71	71	86	71

注：環境基準III類型=0.05mg/L以下

環境基準IV類型=0.09mg/L以下

□：環境基準不適合

環境基準の適否は、類型指定された平成7年度から評価を行っている。

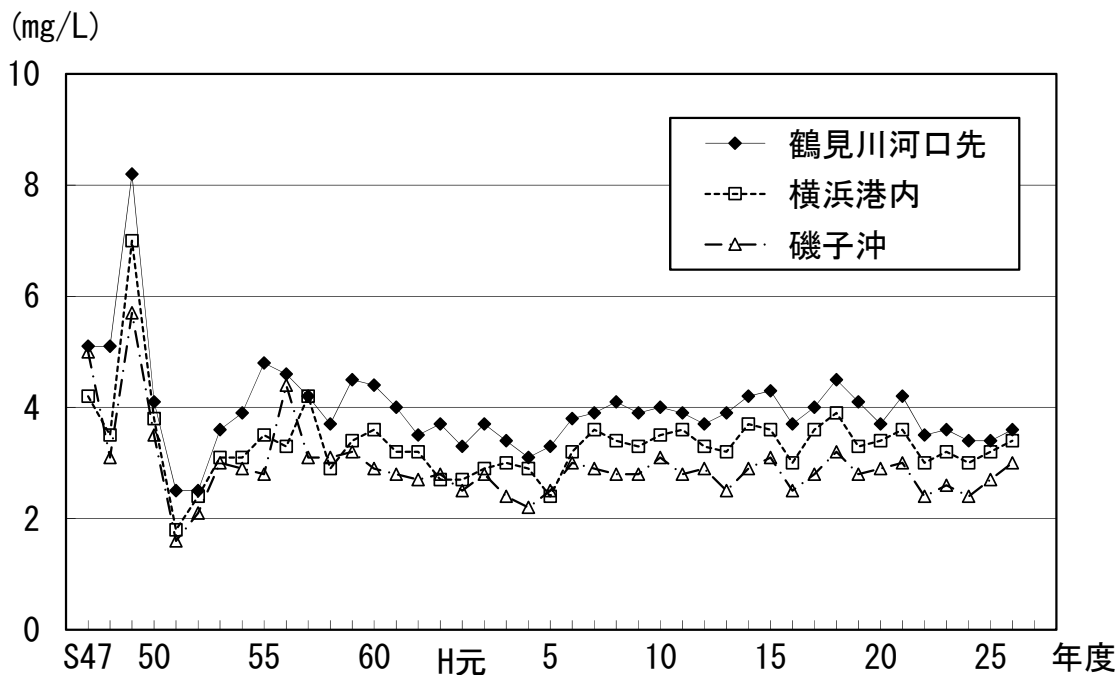


図 2-1-1 東京湾 C 類型 COD 年平均値の経年変化  
(公共用水域水質測定)

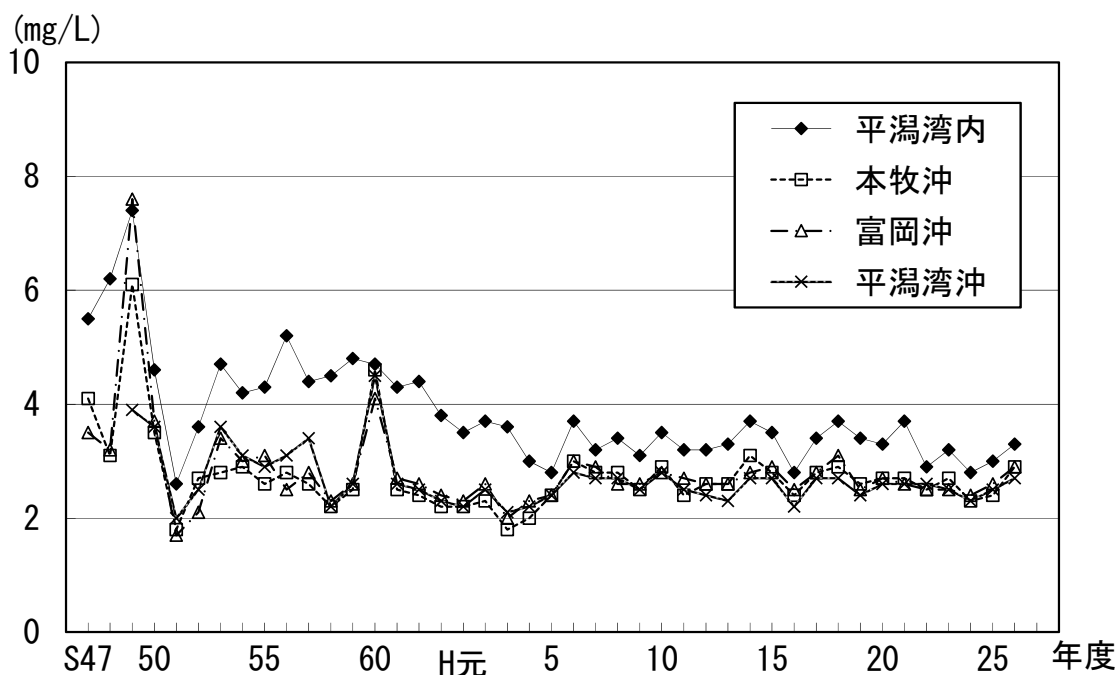


図 2-1-2 東京湾 B 類型 COD 年平均値の経年変化  
(公共用水域水質測定)

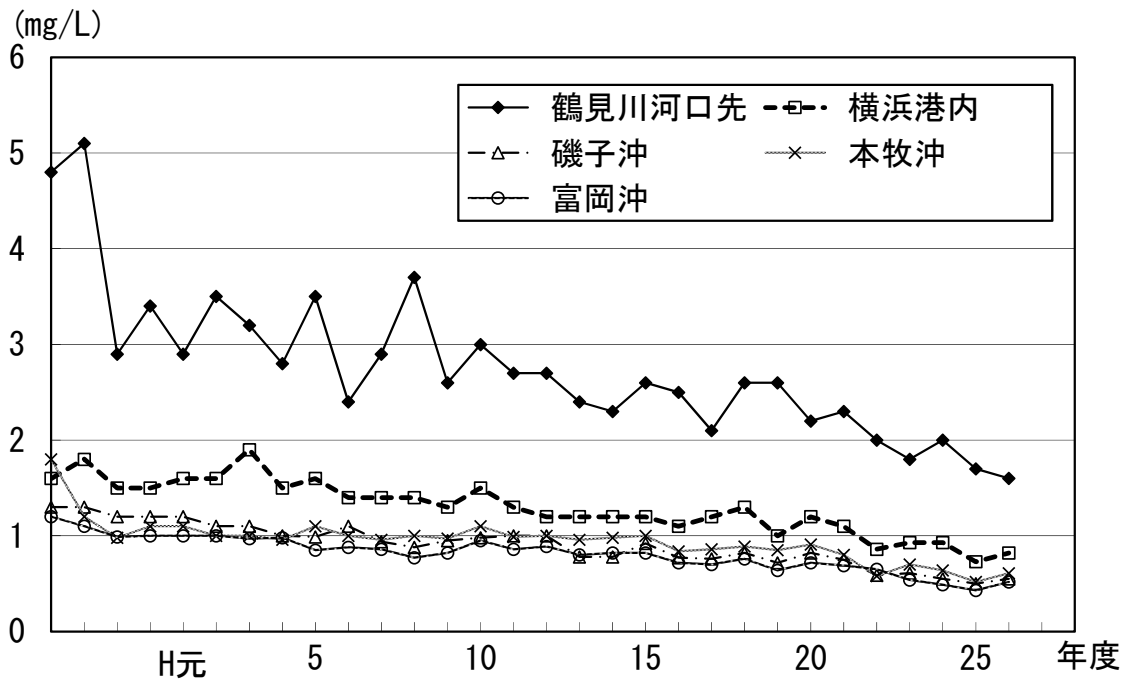


図 2-13 東京湾IV類型全窒素年平均値の経年変化 (公共用水域水質測定)

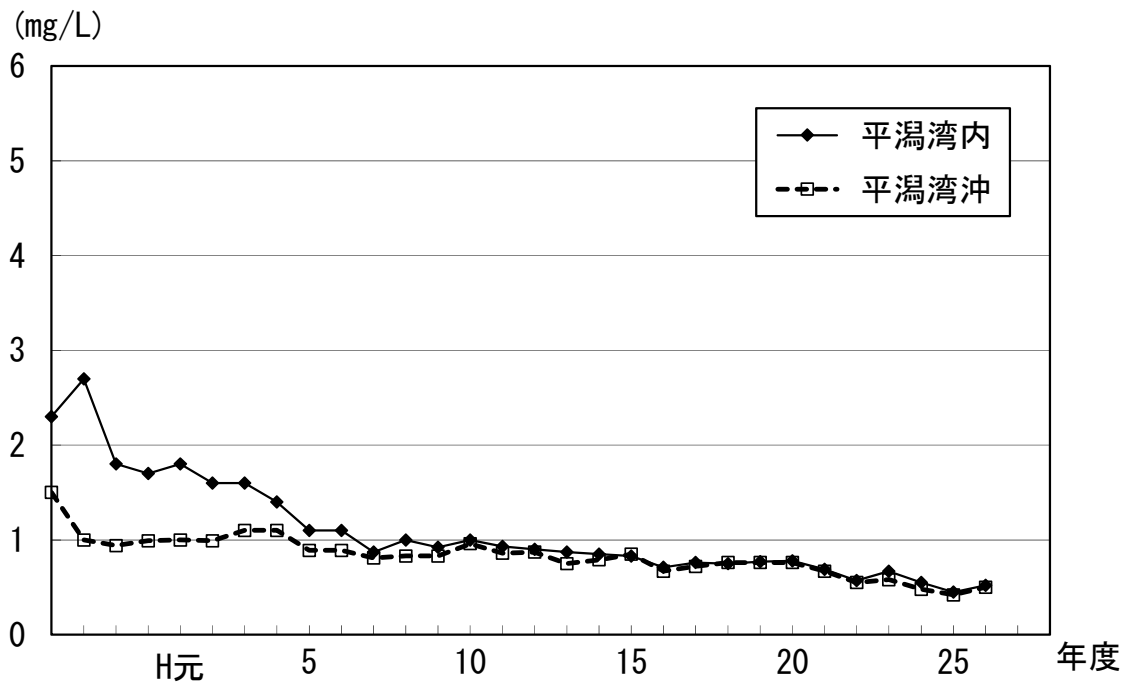


図 2-14 東京湾III類型全窒素年平均値の経年変化 (公共用水域水質測定)

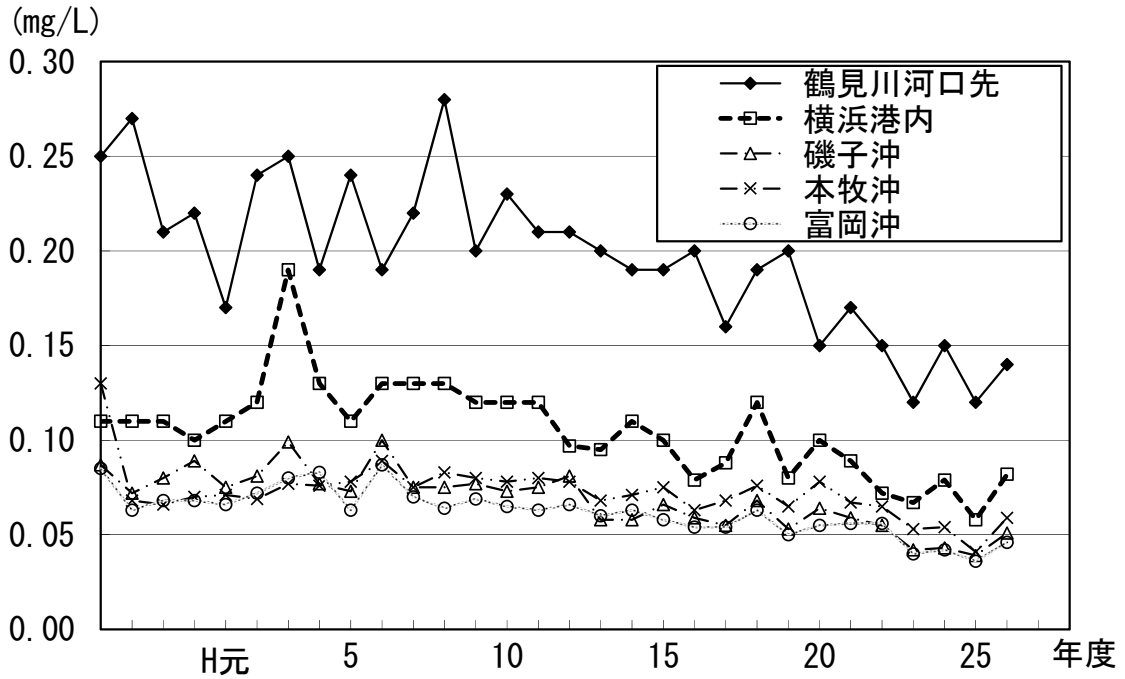


図 2-15 東京湾Ⅳ類型全燐年平均値の経年変化（公共用水域水質測定）

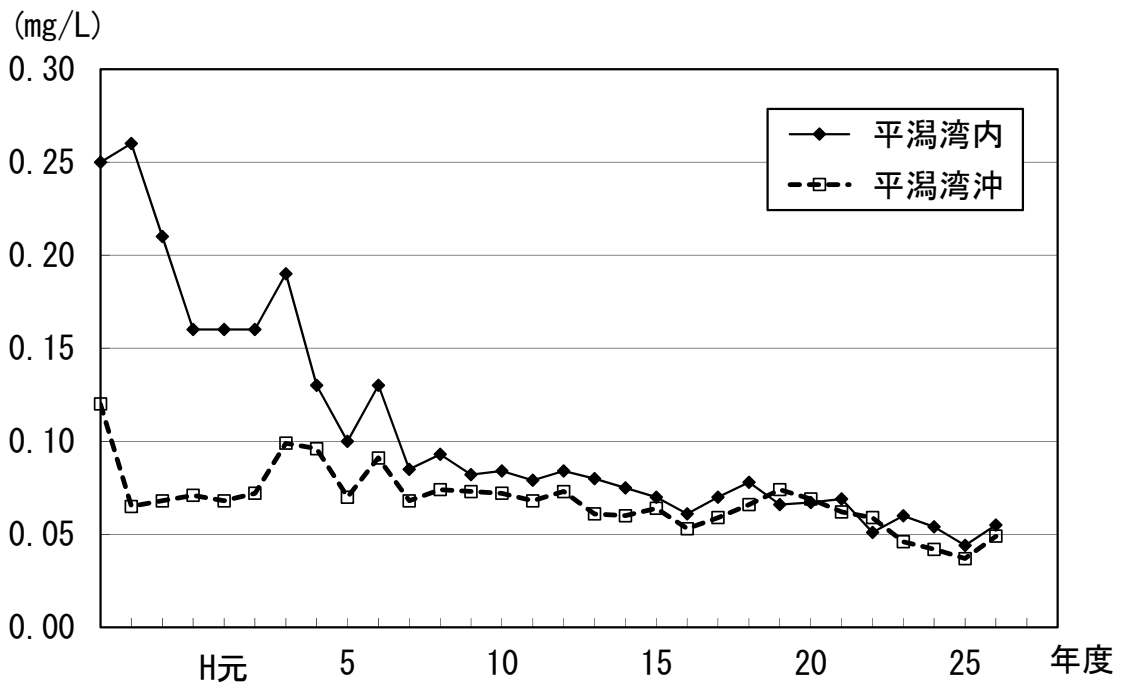


図 2-16 東京湾Ⅲ類型全燐年平均値の経年変化（公共用水域水質測定）

## (3) 水質汚濁に関する環境基準

表 2-15 人の健康の保護に関する環境基準

(mg/L以下)

項目	基準値	項目	基準値
カドミウム	0.003	1, 1, 2-トリクロロエタン	0.006
全シアン	検出されないこと	トリクロロエチレン	0.01
鉛	0.01	テトラクロロエチレン	0.01
六価クロム	0.05	1, 3-ジクロロプロペン	0.002
砒素	0.01	チウラム	0.006
総水銀	0.0005	シマジン	0.003
アルキル水銀	検出されないこと	チオベンカルブ	0.02
P C B	検出されないこと	ベンゼン	0.01
ジクロロメタン	0.02	セレン	0.01
四塩化炭素	0.002	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10
1, 2-ジクロロエタン	0.004	ふっ素	0.8
1, 1-ジクロロエチレン	0.1	ほう素	1
シス-1, 2-ジクロロエチレン	0.04	1, 4-ジオキサン	0.05
1, 1, 1-トリクロロエタン	1		

直ちに達成され、維持されるように努めるものとする。

基準値は年間平均値とする。

ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。

表 2-16 生活環境の保全に関する環境基準【河川】

類型	利用目的の適応性	水素イオン 濃度指数 (pH)	生物化学的 酸素要求量 (BOD)	浮遊物質 量 (SS)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌群数 ※1
B	水道3級※2 水産2級※3及び C以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	3mg/L以下	25mg/L以下	5mg/L以上	5000 MPN/100mL 以下
C	水産3級※4 工業用水1級※5及び D以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	5mg/L以下	50mg/L以下	5mg/L以上	—
D	工業用水2級※6 農業用水及び Eの欄に掲げるもの	6.0以上 8.5以下	8mg/L以下	100mg/L以下	2mg/L以上	—
E	工業用水3級※7 環境保全※8	6.0以上 8.5以下	10mg/L以下	ごみ等の浮遊 が認められな いこと	2mg/L以上	—

※ 基準値は、日間平均値とする（湖沼、海域もこれに準ずる。）。

※1 入江川、帷子川、大岡川、宮川及び侍従川において大腸菌群数に係る基準値は、当分の間適用しない。（平成12年10月31日神奈川県告示第702号）

※2 水道3級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの

※3 水産2級：サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産3級の水産生物用

※4 水産3級：コイ、フナ等、β-中腐水性水域の水産生物用

※5 工業用水1級：沈殿等による通常の浄水操作を行うもの

※6 工業用水2級：薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの

※7 工業用水3級：特殊の浄水操作を行うもの

※8 環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩道を含む。）において不快感を生じない限度

表 2-17 生活環境の保全に関する環境基準【海域】

ア

類型	利用目的の適応性	水素イオン濃度指数 (pH)	化学的酸素要求量 (COD)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌群数 ※1	n-ヘキサン抽出物質 (油分等)
B	水産2級工業用水及びCの欄に掲げるもの	7.8以上 8.3以下	3mg/L以下	5mg/L以下	—	検出されないこと
C	環境保全	7.0以上 8.3以下	8mg/L以下	2mg/L以下	—	—

イ

類型	利用目的の適応性	全窒素	全リン
Ⅲ	水産2種※1及びⅣの欄に掲げるもの (水産3種を除く)	0.6mg/L以下	0.05mg/L以下
Ⅳ	水産3種※2、工業用水、生物生息環境保全※3	1mg/L以下	0.09mg/L以下

※ 基準値は、表層の年間平均値とする。

※ 水域類型の指定は、海洋植物プランクトンの著しい増殖を生ずるおそれがある海域について行うものとする。

※1 水産2種：一部の底生魚介類を除き、魚類を中心とした水産生物が多獲される。

※2 水産3種：汚濁に強い特定の水産生物が主に漁獲される。

※3 生物生息環境保全：年間を通して底生生物が生息できる限度。

## 2 地下水の水質状況

## (1) 地下水質測定等内容

表 2-18 地下水質測定等内容

概況調査	定点調査	期間	平成26年10月		
		地点	6地点	回数	年1回
		項目	環境基準項目等32項目※1		
		方法	市内6地点の地下水を採水する。長期的な観点から経年変化を調査する。		
	メッシュ調査	期間	平成26年10月		
		地点	24地点	回数	年1回
		項目	環境基準項目等32項目※1		
		方法	市内全域を2kmメッシュに区切り、各メッシュ内の1つの井戸を選定し、その井戸の水質を調査する。4年間で市内全体の調査を行う。		
継続監視調査	期間	平成26年10月～11月			
	地点	16地域の28地点	回数	年1回	
	項目	汚染関連物質			
	方法	過去に行った概況調査により汚染が確認された測定地点において、継続的な監視のため定期的に調査する。			
汚染井戸	周辺地区調査	期間	平成26年12月		
		地点	2地域の5地点	回数	年1回
		項目	汚染関連物質		
		方法	平成26年度概況調査で新たに発見された汚染物質について、その汚染範囲を確認するために調査する。		
	監視調査	期間	平成26年10月～11月		
		地点	6地域の13地点	回数	年1回
		項目	汚染関連物質		
		方法	過去に行った市の独自調査により汚染が確認された測定地点において、継続的な監視のため定期的に調査する。		
	追跡調査	期間	平成26年11月～平成27年3月		
		地点	12地域の43地点	回数	年1回
		項目	汚染関連物質		
		方法	過去に行った市の独自調査や事業者からの報告により汚染が確認された測定地点において、継続的な監視のため定期的に調査する。		

※1： 地下水の水質汚濁に係る環境基準（以下、「地下水環境基準」という。）に定められている 28 項目のうち、アルキル水銀を除いた 27 項目と電気伝導率、pH、水温など 5 項目の合計 32 項目（アルキル水銀については、総水銀が検出された場合のみ調査）

(2) 地下水質の測定結果

表 2-19 平成26年度 地下水質の測定結果

調査項目	概況調査						継続監視調査			汚染井戸						地下水の水質汚濁に係る環境基準値 (mg/L)	
	定点調査			メッシュ調査			調査検体数	検出検体数	環境基準超過検体数	周辺地区調査			監視・追跡調査				
	調査検体数	検出検体数	環境基準超過検体数	調査検体数	検出検体数	環境基準超過検体数				調査検体数	検出検体数	環境基準超過検体数	調査検体数	検出検体数	環境基準超過検体数		
カドミウム	6	0	0	24	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.003以下	
全シアン	6	0	0	24	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	検出されないこと	
鉛	6	0	0	24	0	0	3	0	0	—	—	—	1	0	0	0.01以下	
六価クロム	6	0	0	24	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.05以下	
砒素	6	0	0	24	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.01以下	
総水銀	6	0	0	24	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.0005以下	
PCB	6	0	0	24	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	検出されないこと	
ジクロロメタン	6	0	0	24	0	0	—	—	—	—	—	—	1	0	0	0.02以下	
四塩化炭素	6	0	0	24	0	0	—	—	—	—	—	—	4	0	0	0.002以下	
塩化ビニルモノマー	6	0	0	24	0	0	—	—	—	—	—	—	6	2	1	0.002以下	
1,2-ジクロロエタン	6	0	0	24	0	0	2	0	0	—	—	—	—	—	—	0.004以下	
1,1-ジクロロエチレン	6	0	0	24	0	0	9	0	0	—	—	—	50	0	0	0.1以下	
1,2-ジクロロエチレン	6	0	0	24	0	0	9	0	0	—	—	—	54	13	7	0.04以下	
1,1,1-トリクロロエタン	6	0	0	24	0	0	7	2	0	—	—	—	13	0	0	1以下	
1,1,2-トリクロロエタン	6	0	0	24	0	0	2	0	0	—	—	—	—	—	—	0.006以下	
トリクロロエチレン	6	0	0	24	0	0	9	0	0	—	—	—	54	14	8	0.01以下	
テトラクロロエチレン	6	0	0	24	1	0	9	5	0	—	—	—	49	26	14	0.01以下	
1,3-ジクロロプロペン	6	0	0	24	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.002以下	
チウラム	6	0	0	24	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.006以下	
シマジン	6	0	0	24	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.003以下	
チオベンカルブ	6	0	0	24	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.02以下	
ベンゼン	6	0	0	24	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.01以下	
セレン	6	0	0	24	1	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.01以下	
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	6	2	0	24	22	2	19	19	15	5	5	1	—	—	—	10以下	
ふっ素	6	0	0	24	5	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.8以下	
ほう素	6	1	0	24	7	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1以下	
1,4-ジオキサン	6	0	0	24	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.05以下	
市独自項目	クロロホルム	6	0	0	24	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.06以下
一般項目	pH	6	—	0	24	—	0	28	—	1	5	—	—	56	—	0	5.8~8.6

※1 : 検出検体数は基準超過検体数を含む。

※2 : 各項目の基準値

環境基準項目 : 環境基準 (平成9年3月13日環境庁告示第10号 平成23年10月27日改正)

p H : 水道法第4条に基づく水質基準値

クロロホルム : 「水質汚濁に係る環境基準についての一部を改正する件及び地下水の水質汚濁に係る環境基準についての一部を改正する件の施行等について (平成11年2月21日環境庁水質保全局長通知)」に定める指針値 (クロロホルムは要監視項目)



表 2-20 平成26年度 地下水環境基準の超過項目

調査区分	測定地点	項目	測定結果 (mg/L)	環境基準 (mg/L)	
メッシュ調査	泉区和泉町	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	15	10以下	
	保土ヶ谷区宮田町 <sup>※1</sup>	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	13	10以下	
継続監視調査	神奈川区松見町	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	19	10以下	
	西区久保町	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	19	10以下	
	南区六ツ川三丁目	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	70	10以下	
	旭区下川井町	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	36	10以下	
	港北区高田町	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	38	10以下	
	港北区高田町	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	19	10以下	
	港北区菊名四丁目	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	16	10以下	
	青葉区市ヶ尾町	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	24	10以下	
	都筑区東方町	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	29	10以下	
	都筑区池辺町	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	16	10以下	
	泉区岡津町	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	27	10以下	
	神奈川区六角橋五丁目	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	13	10以下	
	神奈川区六角橋五丁目	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	15	10以下	
	瀬谷区本郷一丁目	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	23	10以下	
	瀬谷区本郷二丁目	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	11	10以下	
汚染井戸	周辺地区調査	保土ヶ谷区宮田町 <sup>※1</sup>	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	17	10以下
	監視調査	鶴見区北寺尾一丁目	トリクロロエチレン	0.017	0.01以下
			テトラクロロエチレン	0.06	0.01以下
		神奈川区羽沢町	トリクロロエチレン	0.015	0.01以下
			1,2-ジクロロエチレン	0.056	0.04以下
		緑区長津田五丁目	トリクロロエチレン	0.011	0.01以下
			1,2-ジクロロエチレン	0.041	0.04以下
	追跡調査	港南区日野五丁目	1,2-ジクロロエチレン	0.068	0.04以下
			トリクロロエチレン	0.026	0.01以下
			テトラクロロエチレン	0.016	0.01以下
		戸塚区東俣野町	トリクロロエチレン	0.049	0.01以下
		戸塚区東俣野町	テトラクロロエチレン	0.012	0.01以下
		泉区中田北一丁目	テトラクロロエチレン	0.075	0.01以下
		泉区中田北一丁目	テトラクロロエチレン	0.031	0.01以下
		泉区中田北一丁目	テトラクロロエチレン	0.049	0.01以下
泉区中田北一丁目		テトラクロロエチレン	0.012	0.01以下	
港北区新羽町		トリクロロエチレン	0.025	0.01以下	
神奈川区六角橋二丁目	テトラクロロエチレン	0.021	0.01以下		
保土ヶ谷区新井町	戸塚区上倉田町	塩化ビニルモノマー	0.008	0.002以下	
		1,2-ジクロロエチレン	0.41	0.04以下	
	トリクロロエチレン	0.14	0.01以下		

※1 メッシュ調査で汚染が確認され、汚染井戸周辺地区調査により再調査した同一地点

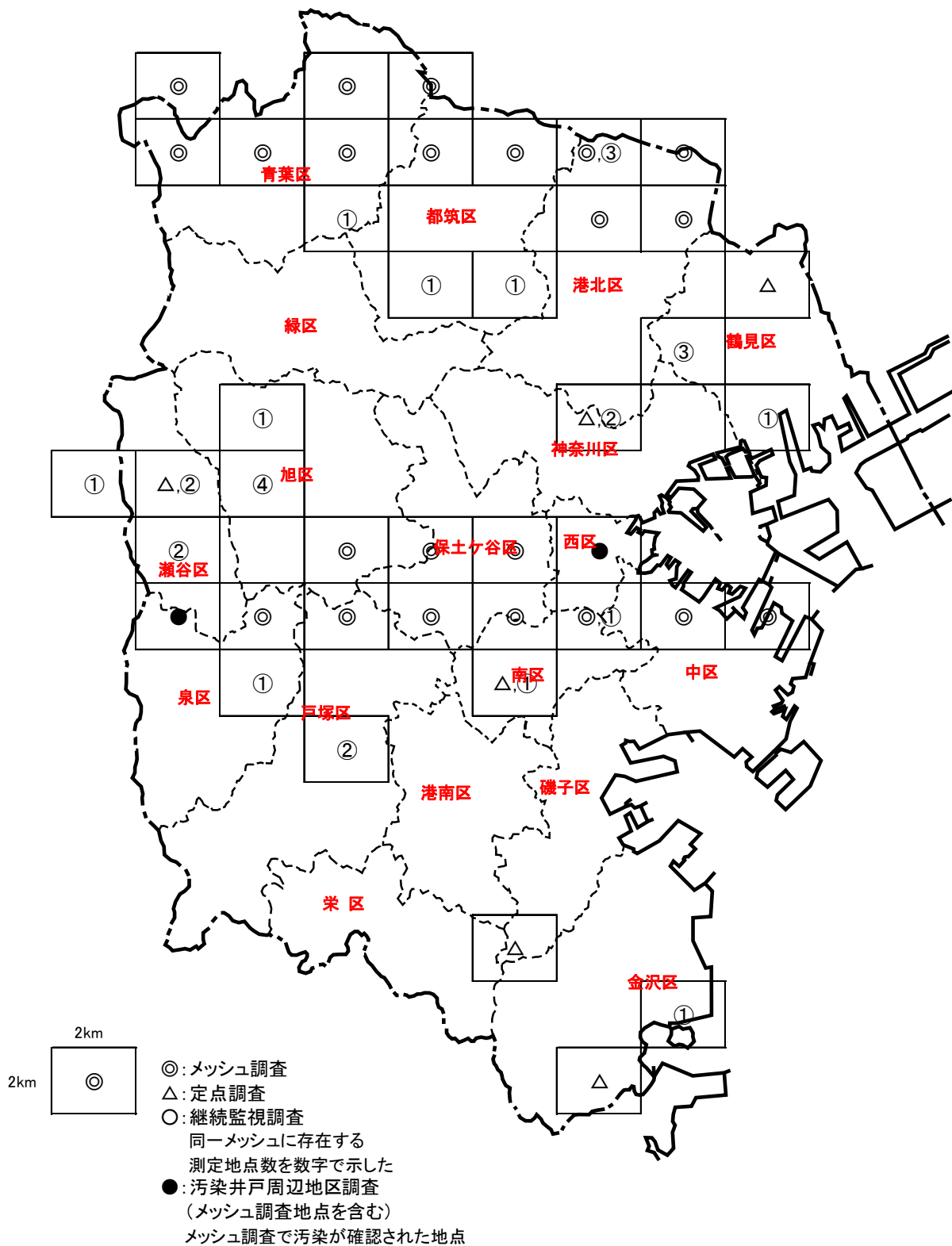


図 2-17 平成26年度 地下水質測定計画調査地点  
 (概況調査、継続監視調査、汚染井戸周辺地区調査)

### 第3 平成26年度 交通騒音等の状況

#### 1 道路交通騒音調査及び面的評価の内容

##### (1) 道路交通騒音調査及び面的評価の内容

表 3-1 道路交通騒音調査及び面的評価の内容

項目	路線数	地点数・延長	測定方法・評価方法
道路交通騒音調査	13 路線	34 地点	積分型騒音計により、平日の3日間連続で測定した。 測定期間:平成26年10月~11月
面的評価	14 路線	116.4 km	道路端から50mまでの範囲にある住居等が受ける騒音レベル(実測値等)をもとに各戸の騒音レベルを推計し、環境基準に適合する戸数の割合を評価した。

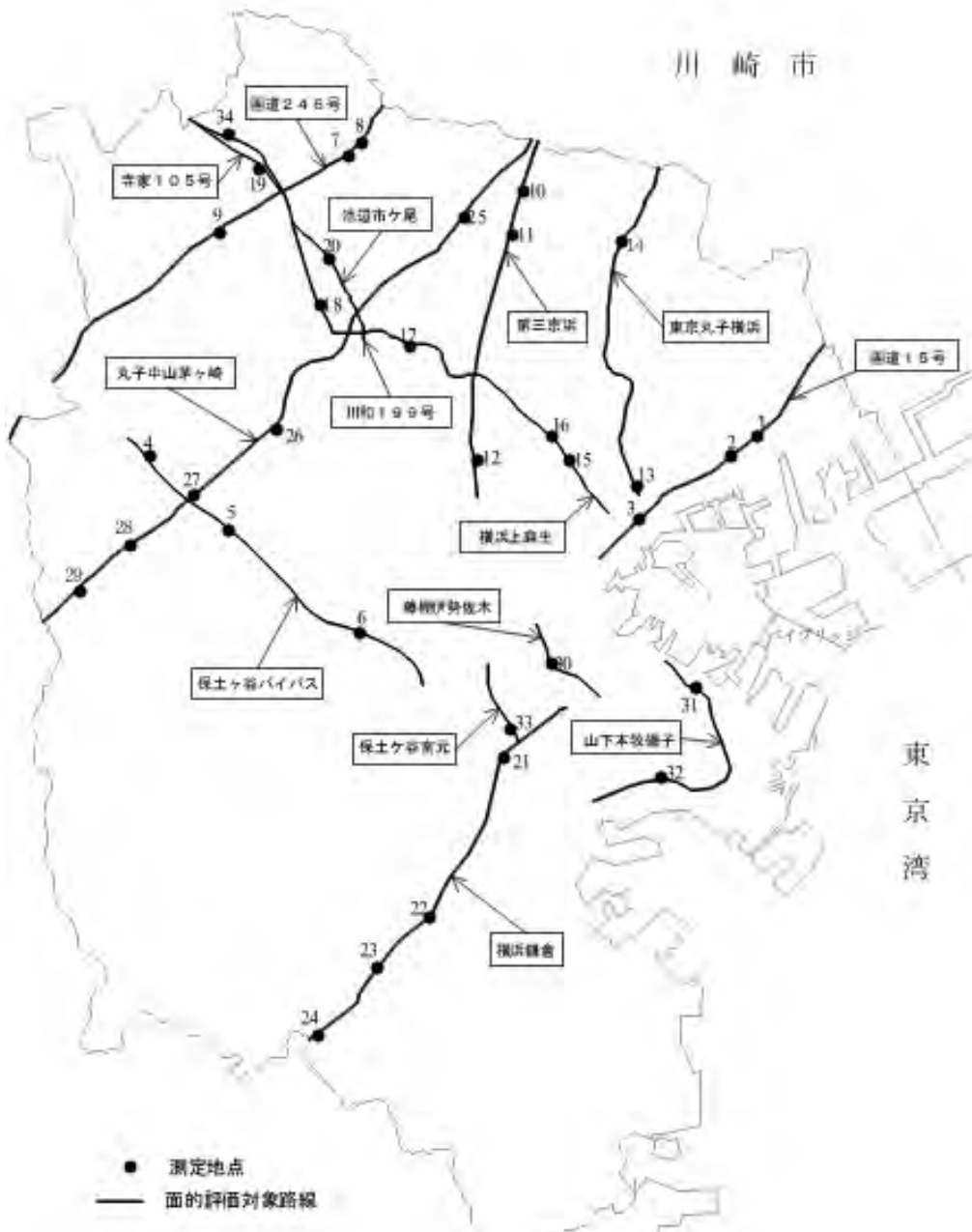


図 3-1 道路交通騒音測定地点及び面的評価路線

(2) 道路交通騒音調査及び面的評価の結果

表 3-2 平成26年度 道路交通騒音調査の測定結果

地点 番号	路線名	測定場所	用途地域	測定結果 (LAeq) dB (A)		環境基 準との 比較※
				昼間	夜間	
1	国道15号	鶴見区生麦四丁目	商業地域	73	71	C
2		鶴見区生麦一丁目	商業地域	70	68	B
3		神奈川区新町	商業地域	68	66	B
4	国道16号 (保土ヶ谷バイパス)	旭区上川井町	無指定	81	80	C
5		旭区今宿一丁目	無指定	79	78	C
6		保土ヶ谷区新桜ヶ丘一丁目	第1種住居地域	71	69	C
7	国道246号	青葉区荏田町	準住居地域	73	73	C
8		青葉区荏田町	準住居地域	75	74	C
9		青葉区しらとり台	準住居地域	76	75	C
10	国道466号 (第三京浜道路)	港北区新吉田町	無指定	74	70	C
11		都筑区早淵一丁目	準工業地域	75	71	C
12		神奈川区羽沢町	無指定	68	64	A
13	県道東京丸子横浜	神奈川区白幡東町	第1種中高層住居専用地域	65	62	A
14		港北区綱島東二丁目	第2種住居地域	69	67	B
15	県道横浜上麻生	神奈川区六角橋六丁目	近隣商業地域	69	66	B
16		港北区岸根町	第2種住居地域	67	65	A
17		都筑区池辺町	工業地域	68	67	B
18		都筑区川和町	近隣商業地域	65	61	A
19	寺家105号	青葉区市ヶ尾町	無指定	67	64	A
20	池辺市ヶ尾	都筑区大丸	準住居地域	68	65	A
21	県道横浜鎌倉	南区大岡二丁目	第1種住居地域	67	66	B
22		港南区日野一丁目	準工業地域	68	66	B
23		港南区日野南三丁目	準工業地域	71	68	C
24		栄区公田町	近隣商業地域	69	67	B
25	県道丸子中山茅ヶ崎	都筑区勝田町	無指定	64	57	A
26		旭区上白根三丁目	準工業地域	72	67	C
27		旭区下川井町	無指定	70	69	B
28		瀬谷区二ツ橋町	準住居地域	72	70	C
29		瀬谷区橋戸二丁目	準住居地域	67	65	A
30	藤棚伊勢佐木	西区境之谷	近隣商業地域	71	67	C
31	山下本牧磯子	中区新山下一丁目	準工業地域	69	65	A
32		中区根岸町	近隣商業地域	69	64	A
33	保土ヶ谷宮元	南区井土ヶ谷下町	近隣商業地域	68	64	A
34	県道横浜上麻生	青葉区鉄町	無指定	67	59	A

平成26年度測定結果 13路線(34地点)	A	B	C
	12	9	13

※A：昼夜とも環境基準に適合

B：昼間又は夜間のいずれかが環境基準に適合

C：昼夜とも環境基準に不適合

表 3-3 平成26年度 面的評価の結果

路線名	評価 道路長 (km)	評価 戸数	昼間・夜間とも 環境基準適合		昼間環境 基準値を 満足した 戸数	夜間環境 基準値を 満足した 戸数
			適合 戸数	%	戸数	戸数
1 国道15号	8.3	11,554	10,210	88.4	11,061	10,210
2 国道16号(保土ヶ谷バイパス)	9.9	2,195	1,581	72.0	1,870	1,581
3 国道246号	10.9	7,642	4,411	57.7	6,494	4,411
4 国道466号(第三京浜道路)	10.3	1,383	1,332	96.3	1,346	1,332
5 県道東京丸子横浜	9.7	8,333	8,084	97.0	8,299	8,084
6 県道横浜上麻生	16.8	8,740	8,044	92.0	8,595	8,044
7 県道横浜鎌倉	12.0	9,376	8,449	90.1	9,209	8,449
8 県道丸子中山茅ヶ崎	19.3	5,906	5,373	91.0	5,461	5,384
9 藤棚伊勢佐木	2.4	2,965	2,544	85.8	2,653	2,544
10 山下本牧磯子	7.2	6,289	6,202	98.6	6,247	6,204
11 保土ヶ谷宮元	2.2	2,171	2,039	93.9	2,126	2,039
12 寺家105号	2.8	212	198	93.4	201	198
13 池辺市ヶ尾	4.1	1,879	1,779	94.7	1,833	1,779
14 川和199号	0.5	55	52	94.5	55	52
平成26年度評価路線 14路線	116.4	68,700	60,298	87.8	65,450	60,311

## (3) 道路交通騒音・振動に関する環境基準

表 3-4 騒音に関する環境基準(道路に面する地域)

地域の区分	昼間(午前6時~午後10時)	夜間(午後10時~午前6時)
A地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域	60 dB 以下	55 dB 以下
B地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域及びC地域のうち車線を有する道路に面する地域	65 dB 以下	60 dB 以下

この場合において、幹線交通を担う道路に近接する空間については、上表にかかわらず、特例として次表の基準値の欄に掲げるとおりとする。

昼間(午前6時~午後10時)	夜間(午後10時~午前6時)
70 dB 以下	65 dB 以下

〔幹線交通を担う道路〕：高速自動車国道、自動車専用道路、一般国道、都道府県道及び4車線以上の市町村道をいう。

2 新幹線鉄道騒音・振動状況

(1) 新幹線鉄道騒音・振動調査の内容

表 3-5 新幹線鉄道騒音・振動調査の内容

測定時期	平成26年9月
測定地点	騒音：8箇所（軌道からの距離12.5 m、25 m、50 mの計24地点） 振動：8箇所（軌道からの距離12.5 m、25 m、50 mの計24地点）
測定方法	騒音：原則として20本（上下線各10本）の列車を測定した。 振動：原則として20本（上下線各10本）の列車を測定した。

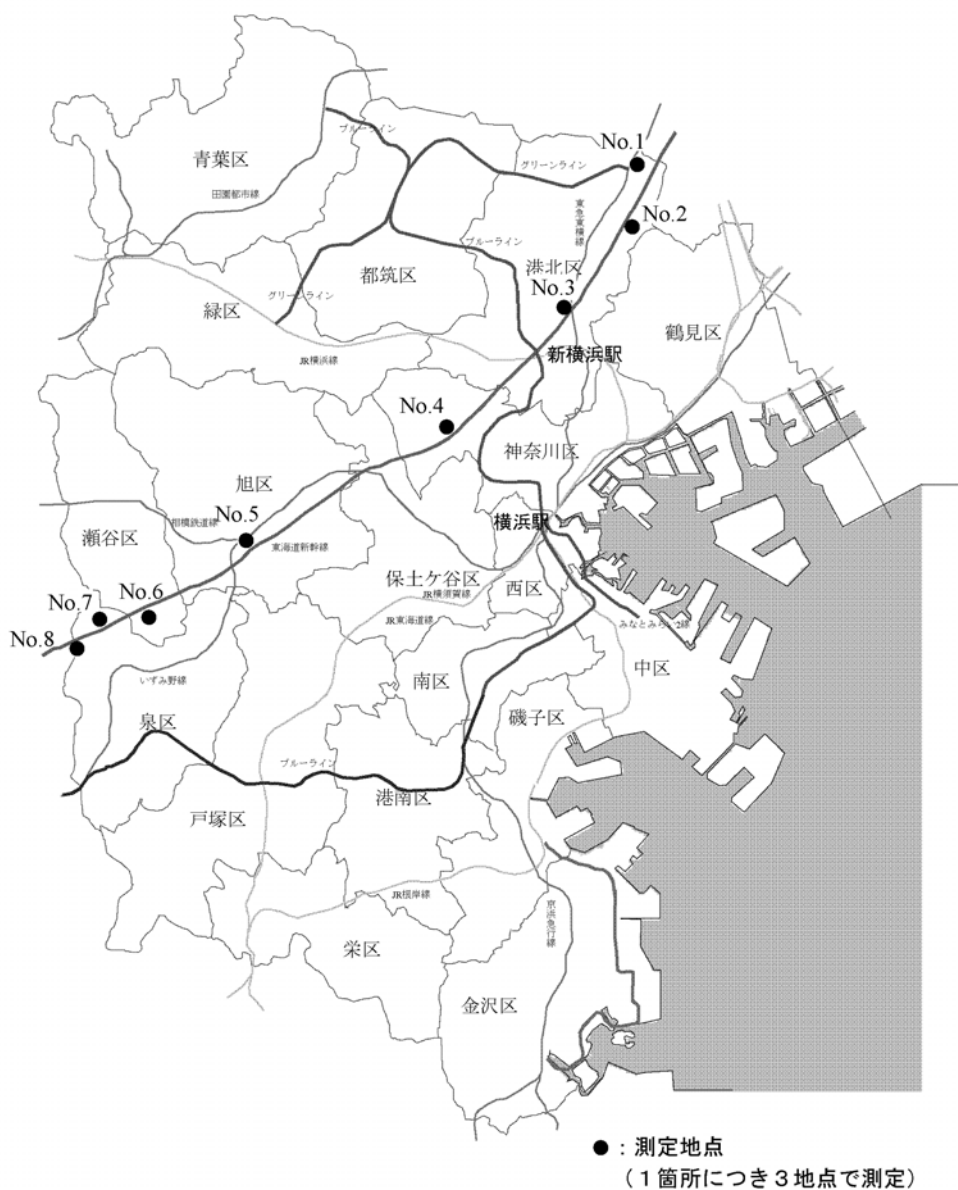


図 3-2 新幹線鉄道騒音・振動調査地点

## (2) 新幹線鉄道騒音・振動調査の結果

表 3-6 平成26年度 新幹線鉄道騒音の環境基準適合状況

軌道からの距離	地域類型Ⅰ(住居系) (環境基準70 dB)			地域類型Ⅱ(商工業系) (環境基準75 dB)		
	適合数	不適合数	適合率(%)	適合数	不適合数	適合率(%)
12.5 m 地点	1	6	14	1	0	100
25 m 地点	4	3	57	1	0	100
50 m 地点	6	1	86	1	0	100
合計	11	10	52	3	0	100

表 3-7 新幹線鉄道騒音レベルの経年変化(距離別の8地点平均)

(dB)

軌道からの距離	平成									
	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
12.5 m 地点	73	74	74	72	74	73	73	73	74	73
25 m 地点	70	71	71	69	71	70	70	69	71	70
50 m 地点	65	65	66	64	65	65	65	64	65	64

表 3-8 平成26年度 新幹線鉄道振動指針値の適合状況

軌道からの距離	適合数	不適合数	適合率(%)
12.5m地点	7	1	87.5
25m地点	8	0	100
50m地点	8	0	100
合計	23	1	95.8

表 3-9 新幹線鉄道振動レベルの経年変化(距離別の8地点平均)

(dB)

軌道からの距離	平成									
	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
12.5 m 地点	62	62	63	63	61	63	61	64	61	62
25 m 地点	60	59	59	59	59	60	58	61	58	59
50 m 地点	54	54	54	54	54	54	54	56	54	54

表 3-10 新幹線鉄道騒音レベルの経年変化（地点別）

(dB)

No.	測定地点	軌道からの 距離	平成									
			17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
1	港北区 日吉 四丁目	12.5 m 地点	68	69	69	69	70	68	69	68	68	68
		25 m 地点	64	64	64	64	65	64	64	63	64	64
		50 m 地点	57	58	59	57	58	57	57	58	57	59
2	港北区 綱島東 五丁目	12.5 m 地点	72	74	74	71	72	72	73	74	69	72
		25 m 地点	68	71	71	69	70	69	69	70	69	69
		50 m 地点	65	68	68	66	67	67	65	67	64	65
3	港北区 大倉山 三丁目	12.5 m 地点	73	76	74	69	73	72	75	72	73	73
		25 m 地点	70	72	72	67	69	70	71	67	68	69
		50 m 地点	63	65	66	60	61	62	63	59	60	63
4	神奈川区 三枚町	12.5 m 地点	72	74	76	69	73	73	72	72	83	72
		25 m 地点	71	71	73	67	71	72	70	71	79	70
		50 m 地点	66	65	68	63	68	69	66	66	77	65
5	旭区 二俣川 二丁目	12.5 m 地点	74	72	72	72	74	74	74	73	73	73
		25 m 地点	69	67	67	68	70	69	69	67	69	69
		50 m 地点	61	59	60	59	60	62	62	60	61	60
6	瀬谷区 阿久和南 四丁目	12.5 m 地点	76	77	79	77	80	76	76	75	75	77
		25 m 地点	74	75	76	75	76	73	75	74	73	75
		50 m 地点	69	69	69	69	72	68	68	68	67	70
7	泉区 和泉町	12.5 m 地点	75	74	75	75	75	74	72	74	74	74
		25 m 地点	72	71	71	71	71	71	70	70	70	72
		50 m 地点	64	63	64	64	62	64	62	62	62	63
8	泉区 上飯田町	12.5 m 地点	77	75	76	75	75	76	74	74	74	75
		25 m 地点	75	74	74	73	74	74	73	72	72	72
		50 m 地点	74	73	73	73	71	72	73	72	70	71
全地点の平均	12.5 m 地点	73	74	74	72	74	73	73	73	74	73	
	25 m 地点	70	71	71	69	71	70	70	69	71	70	
	50 m 地点	65	65	66	64	65	65	65	64	65	65	



表 3-11 新幹線鉄道振動レベルの経年変化（地点別）

(dB)

No.	測定地点	軌道からの 距離	平成									
			17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
1	港北区 日吉 四丁目	12.5 m 地点	60	60	64	65	63	64	65	65	65	63
		25 m 地点	56	59	59	60	61	63	64	65	63	61
		50 m 地点	55	55	55	55	57	58	58	60	57	53
2	港北区 綱島東 五丁目	12.5 m 地点	64	65	64	66	65	66	64	66	61	62
		25 m 地点	65	65	65	67	67	66	65	67	64	63
		50 m 地点	59	60	59	61	61	61	60	61	63	59
3	港北区 大倉山 三丁目	12.5 m 地点	63	62	63	60	59	60	62	62	59	59
		25 m 地点	61	60	61	58	58	58	56	58	54	54
		50 m 地点	56	55	58	57	55	56	55	57	54	54
4	神奈川区 三枚町	12.5 m 地点	52	53	53	53	50	52	50	68	50	51
		25 m 地点	44	42	44	40	39	41	40	58	40	41
		50 m 地点	41	40	42	38	34	37	39	51	38	39
5	旭区 二俣川 二丁目	12.5 m 地点	66	65	64	66	63	67	65	66	66	65
		25 m 地点	65	62	61	63	60	65	59	61	60	59
		50 m 地点	52	52	52	53	55	56	53	53	51	54
6	瀬谷区 阿久和南 四丁目	12.5 m 地点	67	65	67	65	66	63	62	65	64	66
		25 m 地点	63	63	62	60	62	62	60	64	64	64
		50 m 地点	56	57	54	55	56	56	56	56	57	59
7	泉区 和泉町	12.5 m 地点	68	70	68	70	68	71	67	66	69	71
		25 m 地点	67	64	65	66	65	66	64	64	64	69
		50 m 地点	62	60	61	61	60	59	59	59	60	64
8	泉区 上飯田町	12.5 m 地点	57	59	57	57	55	59	56	54	57	58
		25 m 地点	57	57	57	56	58	57	56	54	56	57
		50 m 地点	52	52	52	52	51	52	50	52	50	51
全地点の平均	12.5 m 地点	62	62	63	63	61	63	61	64	61	62	
	25 m 地点	60	59	59	59	59	60	58	61	58	59	
	50 m 地点	54	54	54	54	54	54	54	56	54	54	

(3) 新幹線に関する環境基準等

表 3-12 新幹線鉄道騒音に関する環境基準 (要約)

地域の類型	都市計画法による用途地域	基準値
I	第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域 第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域 第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域、無指定	70 dB 以下
II	近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域	75 dB 以下

新幹線鉄道振動の指針値

- ① 70 デシベルを超える地域について緊急に振動源及び障害防止対策等を講ずること。
- ② 病院、学校その他特に静穏の保持を要する施設の存する地域については、特段の配慮をするとともに、可及的速やかに措置すること。

## 3 航空機騒音の状況

## (1) 航空機騒音調査の内容

表 3-13 航空機騒音調査の内容

測定期間	平成26年4月～平成27年3月
測定地点	3地点 (緑区長津田小学校、瀬谷区相沢小学校、泉区東中田小学校)
測定方法	24時間常時測定 測定項目は、57 dB以上の騒音の発生日時とその実音、騒音のピークレベル及び継続時間等である。

## (2) 航空機騒音調査の結果

表 3-14 平成26年度 航空機騒音レベルの測定結果

測定地点	平成 25	26	
	$L_{den}$	$L_{den}$	WECPNL
緑区長津田小学校	46	43.6	56
瀬谷区相沢小学校	—	47.8	60
泉区東中田小学校	48	45.2	57

※航空機騒音の継続時間を20秒程度と仮定すると、 $L_{den}$ とWECPNLの間には、次の式が成り立ちます。

$$L_{den} \cong \text{WECPNL} - 13$$

ただし実際の測定においては、一定の範囲内ではばらつきが生じ得ます。

表 3-15 航空機騒音レベルの経年変化(参考)

(WECPNL)

測定地点	年度	平成									
		15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
緑区長津田小学校		60	59	59	58	59	57	56	57	57	57
瀬谷区相沢小学校		61	61	60	60	60	57	59	59	59	59
泉区東中田小学校		59	58	58	57	58	57	57	57	60	61

(3) 航空機騒音に関する環境基準

表 3-16 航空機騒音に関する環境基準

( $L_{den}$  : 時間帯補正等価騒音レベル)

地域の類型	基準値
I	57 デシベル以下
II	62 デシベル以下

- ※1 : Iをあてはめる地域は専ら住居の用に供される地域とし、IIをあてはめる地域はI以外の地域であって通常の生活を保全する必要がある地域とする。なお、各類型をあてはめる地域は、都道府県知事が指定するが、横浜市は地域指定されていない。
- ※2 :  $L_{den}$  (時間帯補正等価騒音レベル) は、人の生活時間帯を考慮して、昼間、夕方、夜間の時間帯ごとに航空機の飛行回数に補正係数を乗じて、影響が大きい夜間の騒音が昼間よりも大きく評価されるようにした指標である。

第4 平成26年度 地盤沈下の状況

1 地盤沈下の状況

表 4-1 平成26年度 精密水準測量結果

(観測基準日:平成27年1月1日)

種別 区名	観測 点数	成果 点数	沈下 点数	沈下内訳(単位:mm)					年間最大変動量			
				10 未満	10 以上	20 未満	20 以上	30 未満	30 以上	沈下量(mm)	町名	点番号
				40 未満	40 以上							
鶴見	32	32	28	28						-7.3	市場東中町	64
神奈川	27	27	25	25						-5.9	神奈川二丁目	I015-028
西	7	7	3	3						-1.1	高島二丁目	236
中	19	19	17	17						-2.1	横浜公園	307
南	9	9	6	6						-1.7	中里一丁目	715
港南	13	13	13	13						-3.8	港南台八丁目	K-22
保土ヶ谷	14	14	10	10						-2.8	上星川三丁目	814
旭	13	13	13	13						-7.9	上川井町	I016-013
磯子	20	20	15	15						-4.3	杉田五丁目	435
金沢	32	32	32	32						-7.0	昭和町	525
港北	35	35	25	25						-8.5	新横浜一丁目	975
緑	11	11	11	11						-3.7	中山町	M-20
青葉	7	7	4	4						-2.1	しらとり台	M-87
都筑	21	21	16	16						-7.5	池辺町	M-14
戸塚	22	22	22	22						-6.0	上倉田町	T-41
栄	23	22	18	18						-3.9	金井町	T-49
泉	15	15	14	14						-2.0	岡津町	T-13
瀬谷	13	13	11	11						-5.8	北町	S-1
計	333	332	283	283								

注) 観測点のうち前年と比較できるものを成果点としました。

表 4-2 隆起・沈下等の状況

種別	観測 点数	成果 点数	(内訳)				(内訳)			(内訳)										
			隆起点数		不動点数		沈下点数		隆起 点数	10~10 19.9 未満 (mm)		沈下 点数	0~10 9.9 (mm)		10~20 19.9 (mm)		20~30 29.9 (mm)		30~50.0 39.9 49.9 以上 (mm)	
			②	②÷①	③	③÷①	④	④÷①		⑤	⑥		⑦	⑧	⑨	⑩				
平成																				
22年度	349	344	117	34%	9	3%	218	63%	117	1	116	218	216	2	0	0	0	0	0	0
23年度	346	336	0	0%	0	0%	336	100%	0	0	0	336	0	0	50	242	43	1		
24年度	339	332	219	66%	5	2%	108	33%	219	1	218	108	107	1	0	0	0	0	0	0
25年度	337	331	94	28%	8	2%	229	69%	94	0	94	229	227	2	0	0	0	0	0	0
26年度	333	332	42	13%	7	2%	283	85%	42	0	42	283	283	0	0	0	0	0	0	0

・平成23年度は、東日本大震災による地殻変動により、全ての成果点(336地点)で20mm以上の沈下を確認しました。

表 4-3 沈下量別面積推移

(単位:km<sup>2</sup>)

沈下量	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
10mm以上 20mm未満	2.74	2.23	1.59			0.29		0.21	0.27	
20mm以上 30mm未満	0.36		0.03				25.99			
30mm以上 40mm未満							129.47			
40mm以上 50mm未満							16.43			
50mm以上							0.01			
合計	3.10	2.23	1.62			0.29	171.90	0.21	0.27	
調査面積	171.90	171.90	171.90	171.90	171.90	171.90	171.90	171.90	171.90	171.90
年間最大変動量(mm)	-29.5	-17.5	-25.0	-8.7	-8.6	-10.7	-50.5	-10.0	-14.0	-8.5
年間最大沈下地点	栄区金井町	栄区金井町	栄区金井町	都筑区佐江戸町	栄区笠間四丁目	港北区小机町	中区本牧町	金沢区六浦一丁目	青葉区住田町	港北区新横浜一丁目